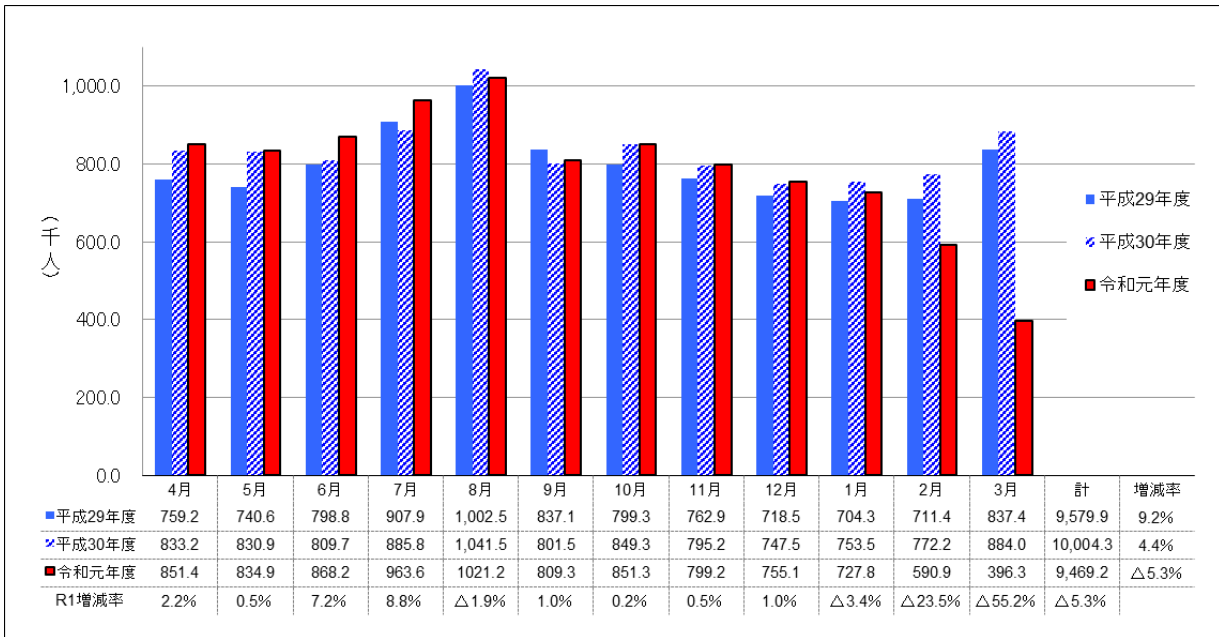


令和元年度 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
令和2年4月発表

令和元年度の観光客数は、946万9,200人
 対前年度（H30）比 -53万5,100人、-5.3%
 ～年度後半に新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少～

■月別入域観光客数の推移（平成29年度～令和元年度）



■令和元年度の概況（総括）

令和元年度の入域観光客数は946万9,200人で、前年度比で53万5,100人、率にして5.3%の減少となった。年度の観光客数としては、東日本大震災の影響を受けた平成23年度以来8年度ぶりの減少となり、平成30年度に超えた1,000万人を下回ることとなった。

平成30年度と比べて減少した要因は、次の通りと考えられる。

- 年度後半における新型コロナウイルス感染症の影響に伴う海外航空路線の減便やクルーズ船寄港回数の減による外国客の減少
- 日韓情勢の悪化による訪日旅行自粛に伴う韓国客の減少
- 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う離島直行便など国内航空路線の減便や利用率の低下による国内客の減少

■令和2年度の見通し

国内客については、新型コロナウイルス感染症の影響による国の緊急事態宣言に伴う不要不急の帰省や旅行等の都道府県をまたいだ移動の自粛要請に加え、沖縄県による緊急事態宣言の間の来県自粛呼びかけ等から、少なくともゴールデンウィーク迄の国内旅行市場は厳しい状況が見込まれる。

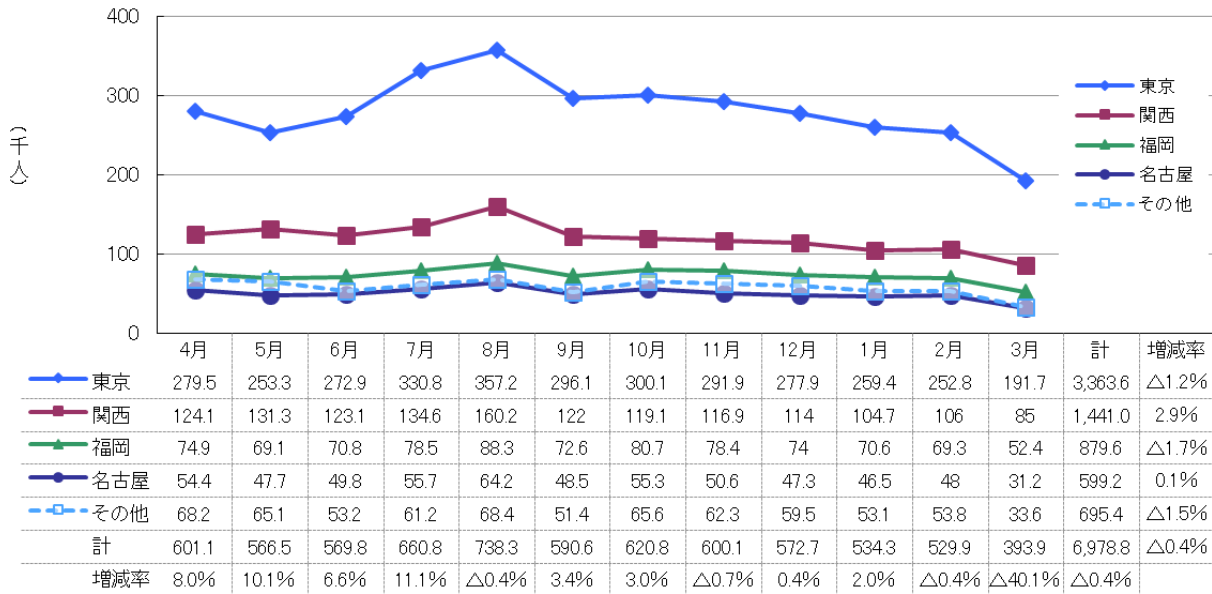
また、外国客についても、新型コロナウイルス感染症の影響により、台湾、中国、韓国等に滞在歴のある外国人に対して、日本への上陸制限の措置が取られていること等から、少なくとも年度当初においては厳しい状況が見込まれる。

国内観光客の動向

■入域観光客数（国内）

令和元年度の国内客は、対前年度比で2万4,700人、率にして0.4%減の697万8,800人となり、平成23年度以来の減少となった。これまでの年度における国内客の過去最高の入込は、平成30年度の700万3,500人である。

■令和元年度国内観光客の状況（方面別の月別推移）



■国内観光客の概況

令和元年度は、景気回復基調が継続したことで国内旅行需要は好調に推移していたが、年度後半における新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛等から、国内旅行需要が低下し平成30年度をやや下回った。

【方面別の動向】

東京方面

成田ー下地島（宮古）路線の新規就航に加え、既存路線の提供座先数の増加があったものの、年度後半に新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛の動きがあったこと等から、平成30年度を下回った。

関西方面

年度後半に新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛の動きがあったものの、関西ー下地島（宮古）路線の新規就航に加えて、既存路線の提供座席数の増加があったこと等から、平成30年度を上回った。

福岡方面

福岡から宮古・石垣への直行便及び北九州ー那覇路線の提供座席数の増加などの航空路線の拡充があったものの、年度後半は、新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛の動きがあったこと等から、平成30年度を下回った。

名古屋方面

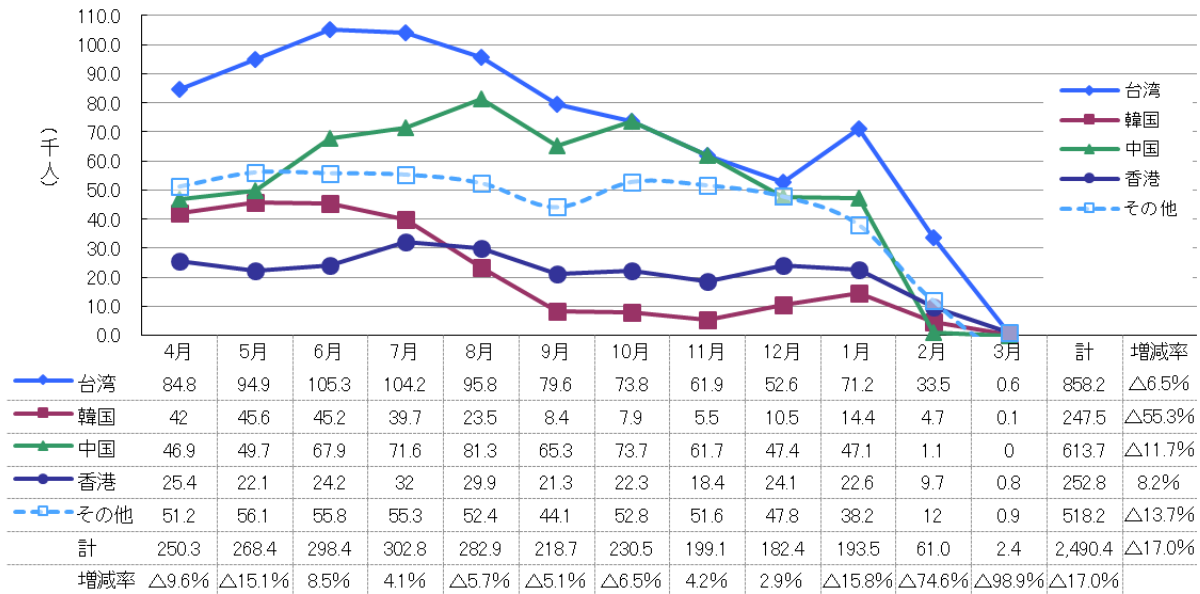
名古屋から宮古への直行便及び名古屋ー那覇路線の増便等の航空路線の拡充があったものの、年度後半は、新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛の動きがあったこと等から、平成30年度並みの推移となった。

外国人観光客の動向

■入域観光客数（外国）

令和元年度の外国客は、対前年度比で 51 万 400 人、率にして 17%の減の 249 万 400 人となり、クルーズ船の運休により減少した平成 18 年度以来の減少となった。これまでの年度における外国客の過去最高の入込は、平成 30 年度の 300 万 800 人である。

■令和元年度外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



■外国人観光客の概況

令和元年度は、香港市場の航空路線の拡充等があったものの、日韓情勢の悪化、新型コロナウイルスの影響による訪日旅行自粛や入国制限のため、航空路線の減便やクルーズ船の寄港回数が減少したこと等により、前年を下回った。

【市場別の動向】

台湾 航空路線の拡充等に加え、クルーズ船の寄港回数も前年並みを推移していたが、年度後半に新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛があったことから、平成 30 年度に超えた 90 万人台を下回った。

韓国 日韓情勢の悪化や年度後半の新型コロナウイルス感染症の影響により、空路客を中心に減少し、過去最高であった平成 30 年度を下回り、平成 25 年度以来の 20 万人台となった。

中国本土 新型コロナウイルス感染症の影響により、航空路線や中国発クルーズ船の寄港回数が減になったこと等から、平成 30 年度を下回った。

香港 年度後半に、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、航空路線の拡充に加え、香港発クルーズ船の寄港回数増により、好調に推移したため、空路・海路客ともに増加し、前年度を上回り、過去 2 番目の観光客数となった。 ※過去最高は、平成 29 年度の 25 万 9,700 人

平成31年（2019）4月 入域観光客数概況

4月の観光客数は、85万1,400人
対前年（H30）同月比 +1万8,200人、+2.2%
～4月の過去最高を更新～

入域状況

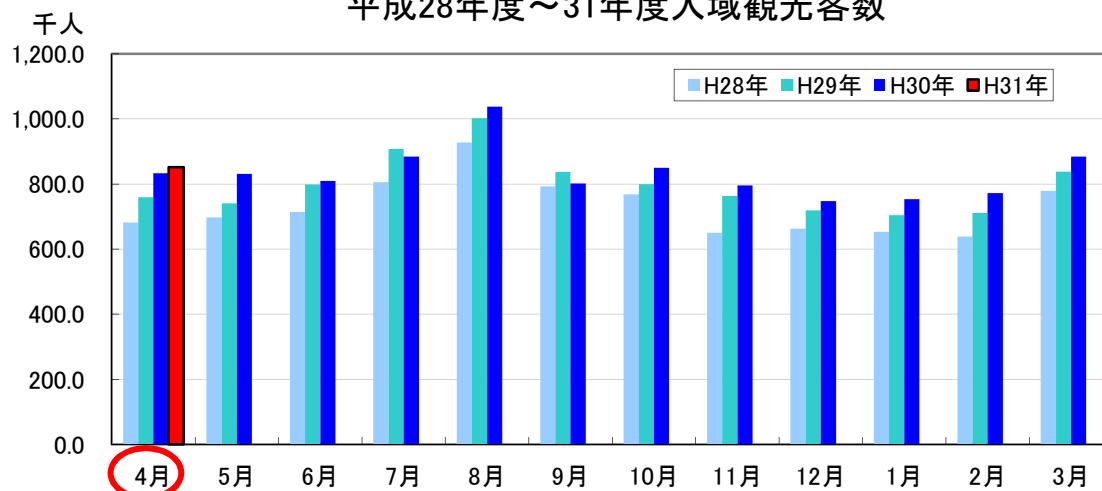
入域観光客数（平成30年度との比較） ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	H31年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	601,100 人	556,400 人	+ 44,700人	+ 8.0%	70.6%
外国客	250,300 人	276,800 人	△ 26,500人	△ 9.6%	29.4%
合計	851,400 人	833,200 人	+ 18,200人	+ 2.2%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成30年度との比較） ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	H31年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	601,100 人	556,400 人	+ 44,700人	+ 8.0%	73.3%
外国客	218,600 人	236,400 人	△ 17,800人	△ 7.5%	26.7%
合計	819,700 人	792,800 人	+ 26,900人	+ 3.4%	100.0%

平成28年度～31年度入域観光客数



国内客 入域状況

4月は、ゴールデンウィークによる航空会社の臨時便の運航等があったことや、沖縄国際映画祭等の大型イベントの開催があったこと等から、前年を上回った。

5月は、引き続きゴールデンウィークによる航空会社の提供座席数の増加や予約状況が良好なこと等から、好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

4月は、ゴールデンウィークが10連休となり旅行商品が高騰したことや、クルーズ船の寄港回数が減少したこと等から、前年を下回った。

5月は、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が減少する予定であるものの、航空路線の拡充が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H31年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	279,500 人	259,500 人	+ 20,000人	+ 7.7%	46.5%
関西方面	124,100 人	116,700 人	+ 7,400人	+ 6.3%	20.6%
福岡方面	74,900 人	71,000 人	+ 3,900人	+ 5.5%	12.5%
名古屋	54,400 人	49,400 人	+ 5,000人	+ 10.1%	9.1%
その他	68,200 人	59,800 人	+ 8,400人	+ 14.0%	11.3%
合計	601,100 人	556,400 人	+ 44,700人	+ 8.0%	100.0%

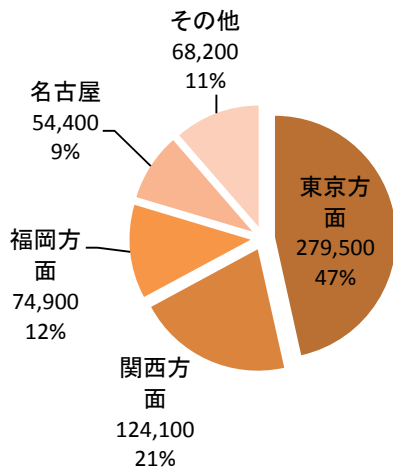
※国内海路客5,000人を含む(鹿児島2,200人、横浜2,800人)

外国客 国籍別入域状況

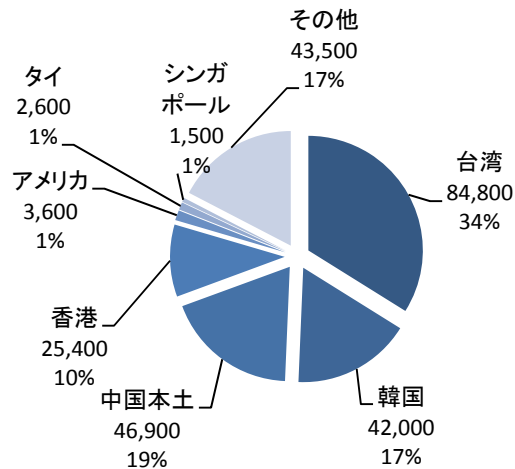
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H31年度	H31年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	84,800 人	84,800 人	89,800 人	△ 5,000人	△5.6%	33.9%
韓国	42,000 人	42,000 人	44,900 人	△ 2,900人	△6.5%	16.8%
中国本土	46,900 人	46,900 人	52,300 人	△ 5,400人	△10.3%	18.7%
香港	25,400 人	25,400 人	22,800 人	+ 2,600人	+11.4%	10.1%
アメリカ	3,600 人	3,600 人	4,300 人	△ 700人	△16.3%	1.4%
タイ	2,600 人	2,600 人	3,200 人	△ 600人	△18.8%	1.0%
シンガポール	1,500 人	1,500 人	1,500 人	△ 0人	+0.0%	0.6%
その他	43,500 人	11,800 人	58,000 人	△ 14,500人	△25.0%	17.4%
合計	250,300 人	218,600 人	276,800 人	△ 26,500人	△9.6%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	55,600 人	55,600 人	△1.6%	37.5%	29,200 人	29,200 人	△12.3%	28.7%
韓国	42,000 人	42,000 人	△6.3%	28.3%	0 人	0 人	△100.0%	0.0%
中国本土	19,300 人	19,300 人	△5.4%	13.0%	27,600 人	27,600 人	△13.5%	27.1%
香港	19,000 人	19,000 人	+1.1%	12.8%	6,400 人	6,400 人	+60.0%	6.3%
アメリカ	2,500 人	2,500 人	+31.6%	1.7%	1,100 人	1,100 人	△54.2%	1.1%
タイ	2,500 人	2,500 人	△19.4%	1.7%	100 人	100 人	+0.0%	0.1%
シンガポール	1,400 人	1,400 人	+0.0%	0.9%	100 人	100 人	+0.0%	0.1%
その他	6,100 人	6,100 人	+19.6%	4.1%	37,400 人	5,700 人	△29.3%	36.7%
合計	148,400 人	148,400 人	△2.4%	100.0%	101,900 人	70,200 人	△18.3%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

4月は、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりに加え、航空会社の提供座席数の増加や搭乗率が良好だったこと等から、前年を上回った。

5月は、引き続きゴールデンウィークによる旅行需要の高まりが期待されることや、航空会社の提供座席数の増加や予約状況が良好なこと等から、好調に推移する見込み。

大阪

4月は、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりに加え、航空会社の提供座席数の増加や搭乗率が良好だったこと等から、前年を上回った。

5月は、引き続きゴールデンウィークによる旅行需要の高まりが期待されることや、一般団体旅行の受注が良好であること等から、好調に推移する見込み。

福岡

4月は、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりに加え、航空会社の搭乗率や旅行会社の旅行商品の販売が良好だったこと等から、前年を上回った。

5月は、引き続きゴールデンウィークによる旅行需要の高まりが期待されることや、旅行商品の予約状況が良好であること等から、好調に推移する見込み。

名古屋

4月は、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりに加え、航空会社の提供座席数の増加や搭乗率が良好だったことや、先行割引航空券やダイナミックパッケージが良好であったこと等から前年を上回った。

5月は、引き続きゴールデンウィークによる旅行需要の高まりが期待されることや、旅行会社の宮古島旅行商品の販売が良好であること等から、好調に推移する見込み。

台湾

4月は、清明節休暇が昨年より1日少なくなったことや、前年同月と比べクルーズ船の寄港回数が減少したこと等から前年を下回った。

5月は、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が減少する予定であるものの、前年同月より航空路線の拡充が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

韓国

4月は、前年同月より航空路線の拡充があったものの、韓中関係の改善による中国への渡航需要の回復やベトナム人気など渡航先の多様化等から、前年を下回った。

5月は、前年同月より航空路線の拡充が予定されていることや、仁川-下地島間のチャーター便の運航が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

中国本土

4月は、ゴールデンウィークの影響による旅行商品の高騰があったことや、前年同月に比べてクルーズ船の寄港回数が減少したこと等から、前年を下回った。

5月は、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が減少する予定であるものの、労働節休暇による旅行需要の高まりが期待されること等から、堅調に推移する見込み。

香港

4月は、イースター休暇があったことや、香港発のクルーズ船の寄港が増加したこと等から前年を上回った。

5月は、仏誕節休暇による旅行需要の高まりが期待されることや、香港発のクルーズ船の寄港が増加する予定があること等から、好調に推移する見込み。

令和元年（2019）5月 入域観光客数概況

5月の観光客数は、83万4,900人
対前年（H30）同月比 +4,000人、+0.5%
～5月の過去最高を更新～

入域状況

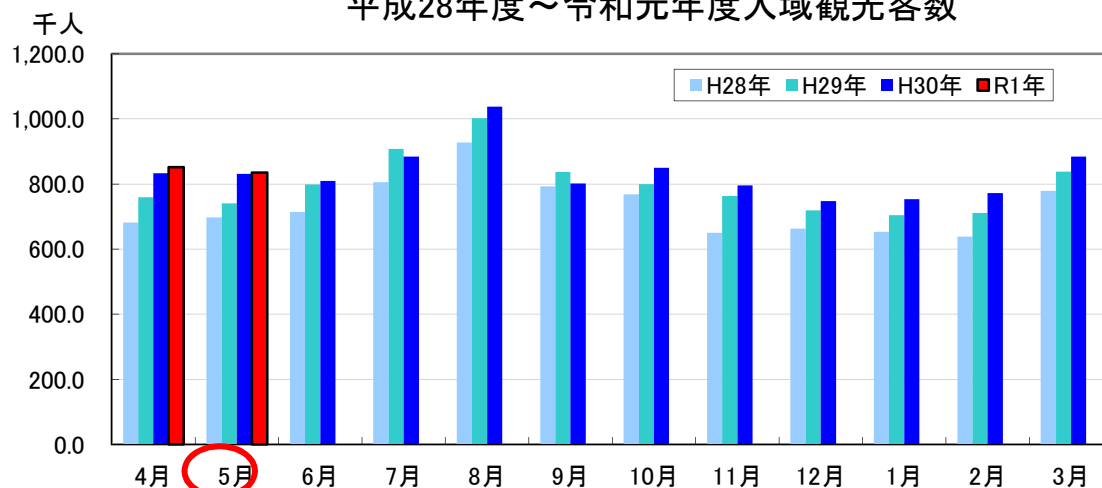
入域観光客数（平成30年度との比較） ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	566,500 人	514,600 人	+ 51,900人	+ 10.1%	67.9%
外国客	268,400 人	316,300 人	△ 47,900人	△ 15.1%	32.1%
合計	834,900 人	830,900 人	+ 4,000人	+ 0.5%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成30年度との比較） ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	566,500 人	514,600 人	+ 51,900人	+ 10.1%	70.7%
外国客	234,900 人	264,200 人	△ 29,300人	△ 11.1%	29.3%
合計	801,400 人	778,800 人	+ 22,600人	+ 2.9%	100.0%

平成28年度～令和元年度入域観光客数



国内客 入域状況

5月は、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりがあったことや、航空会社の臨時便の運航があったこと等から、前年を上回った。

6月は、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が安定していることや、旅行会社の商品販売強化の取組があること等から、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

5月は、ゴールデンウィークが10連休となり旅行商品が高騰したことや、クルーズ船の寄港回数が減少したこと等から、前年を下回った。

6月は、前年同月より航空路線の拡充が予定されていることや、クルーズ船の寄港回数が増加する予定であること等から、堅調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	253,300 人	225,200 人	+ 28,100人	+ 12.5%	44.7%
関西方面	131,300 人	124,600 人	+ 6,700人	+ 5.4%	23.2%
福岡方面	69,100 人	64,900 人	+ 4,200人	+ 6.5%	12.2%
名古屋	47,700 人	42,800 人	+ 4,900人	+ 11.4%	8.4%
その他	65,100 人	57,100 人	+ 8,000人	+ 14.0%	11.5%
合計	566,500 人	514,600 人	+ 51,900人	+ 10.1%	100.0%

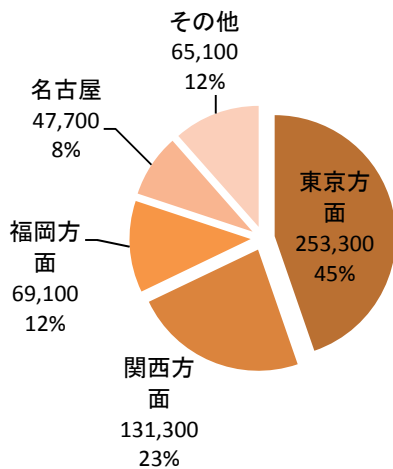
※国内海路客10,200人を含む(鹿児島2,400人、横浜4,000人、神戸3,800人)

外国客 国籍別入域状況

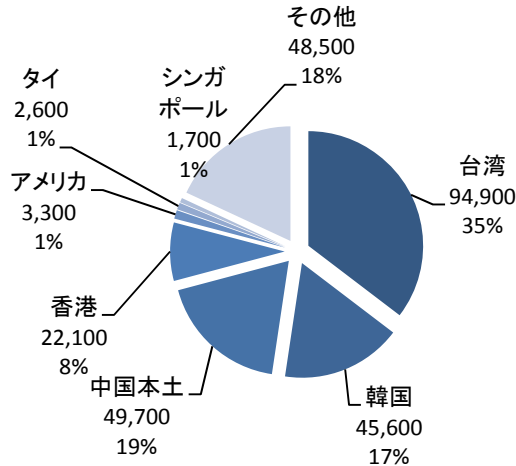
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R1年度	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	94,900 人	94,900 人	97,200 人	△ 2,300人	△2.4%	35.4%
韓国	45,600 人	45,600 人	48,800 人	△ 3,200人	△6.6%	17.0%
中国本土	49,700 人	49,700 人	71,000 人	△ 21,300人	△30.0%	18.5%
香港	22,100 人	22,100 人	21,100 人	+ 1,000人	+4.7%	8.2%
アメリカ	3,300 人	3,300 人	2,700 人	+ 600人	+22.2%	1.2%
タイ	2,600 人	2,600 人	2,900 人	△ 300人	△10.3%	1.0%
シンガポール	1,700 人	1,700 人	1,500 人	+ 200人	+13.3%	0.6%
その他	48,500 人	15,000 人	71,100 人	△ 22,600人	△31.8%	18.1%
合計	268,400 人	234,900 人	316,300 人	△ 47,900人	△15.1%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	62,100 人	62,100 人	+4.0%	38.3%	32,800 人	32,800 人	△12.5%	30.9%
韓国	45,500 人	45,500 人	△0.9%	28.0%	100 人	100 人	△96.6%	0.1%
中国本土	22,800 人	22,800 人	+5.6%	14.0%	26,900 人	26,900 人	△45.5%	25.4%
香港	20,500 人	20,500 人	+22.8%	12.6%	1,600 人	1,600 人	△63.6%	1.5%
アメリカ	2,100 人	2,100 人	+16.7%	1.3%	1,200 人	1,200 人	+33.3%	1.1%
タイ	2,500 人	2,500 人	△10.7%	1.5%	100 人	100 人	+0.0%	0.1%
シンガポール	1,600 人	1,600 人	+23.1%	1.0%	100 人	100 人	△50.0%	0.1%
その他	5,200 人	5,200 人	+4.0%	3.2%	43,300 人	9,800 人	△34.5%	40.8%
合計	162,300 人	162,300 人	+4.8%	100.0%	106,100 人	72,600 人	△34.3%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

5月は、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりに加え、航空会社の提供座席数の増加や搭乗率が良好だったこと等から、前年を上回った。

6月は、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が安定していることや、旅行会社の商品販売強化の取組があること等から、堅調に推移する見込み。

大阪

5月は、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりに加え、航空会社の提供座席数の増加や搭乗率が良好だったこと等から、前年を上回った。

6月は、航空会社の先行割引航空券の販売が良好であることや、一般団体旅行の受注が良好であること等から、好調に推移する見込み。

福岡

5月は、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりに加え、航空会社の提供座席数の増加や搭乗率が良好だったこと等から、前年を上回った。

6月は、引き続き航空会社の提供座席数の増加や、小規模の団体旅行の予約が良好であること等から、堅調に推移する見込み。

名古屋

5月は、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりに加え、航空会社の提供座席数の増加や搭乗率が良好だったこと等から前年を上回った。

6月は、引き続き航空会社の提供座席数の増加や、ダイナミックパッケージの販売が良好なこと等から、堅調に推移する見込み。

台湾

5月は、前年同月より航空路線の拡充があったものの、クルーズ船の寄港回数が減少したこと等から前年を下回った。

6月は、航空路線が前年同月並みに推移するものの、クルーズ船の寄港回数が増加する予定であること等から、好調に推移する見込み。

韓国

5月は、前年同月より航空路線の拡充があったものの、韓中関係の改善による中国への渡航需要の回復やベトナム人気など渡航先の多様化等から、前年を下回った。

6月は、前年同月より航空路線の拡充が予定されていることや、仁川-下地島間のチャーター便の運航が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

中国本土

5月は、労働節休暇による旅行需要の高まりが期待されたものの、前年同月に比べてクルーズ船の寄港回数が減少したこと等から、前年を下回った。

6月は、端午節休暇による旅行需要の高まりが期待されることや、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が増加する予定であること等から、堅調に推移する見込み。

香港

5月は、仏誕節休暇による旅行需要の高まりや、香港発のクルーズ船の寄港が増加したこと等から前年を上回った。

6月は、香港発のクルーズ船の寄港が増加する予定であることや、LCCの香港-那覇路線の運航再開が予定されていること等から、好調に推移する見込み。

令和元年（2019）6月 入域観光客数概況

86万8,200人
対前年（H30）同月比 +58,500人、+7.2%
～6月の過去最高を更新～

入域状況

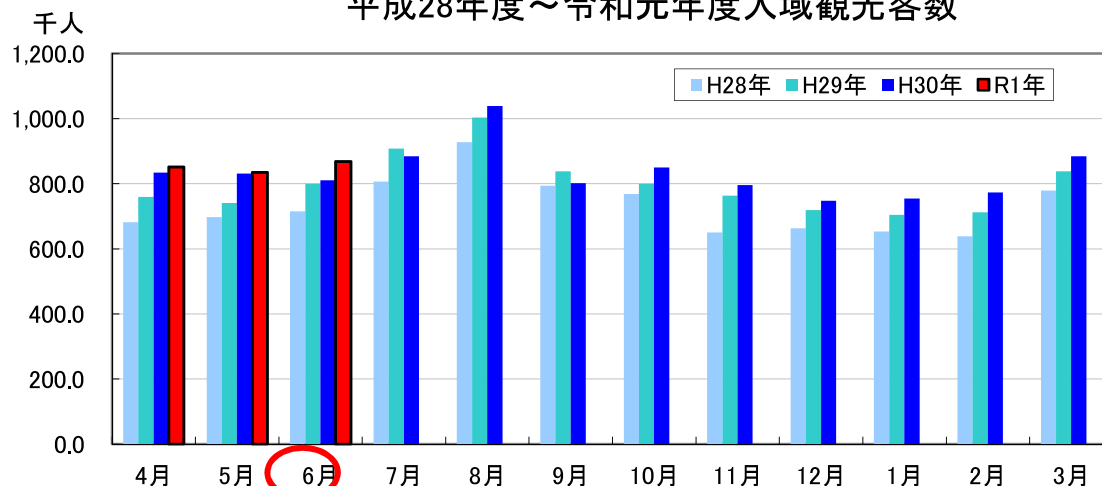
入域観光客数（平成30年度との比較） ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	569,800 人	534,600 人	+ 35,200人	+ 6.6%	65.6%
外国客	298,400 人	275,100 人	+ 23,300人	+ 8.5%	34.4%
合計	868,200 人	809,700 人	+ 58,500人	+ 7.2%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成30年度との比較） ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	569,800 人	534,600 人	+ 35,200人	+ 6.6%	68.7%
外国客	259,800 人	242,600 人	+ 17,200人	+ 7.1%	31.3%
合計	829,600 人	777,200 人	+ 52,400人	+ 6.7%	100.0%

平成28年度～令和元年度入域観光客数



国内客 入域状況

6月は、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が安定していたことや、旅行会社の商品販売強化の取組があったこと等から、前年を上回った。

7月は、前年同月と比べて航空路線の拡充があることや、全国高等学校総合体育大会が開催されること等から、好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

6月は、前年同月より航空路線の拡充があったことや、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、前年を上回った。

7月は、前年同月より航空路線の拡充が予定されていることや、大型クルーズ船の寄港回数が増加する予定であること等から、堅調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	272,900 人	254,400 人	+ 18,500人	+ 7.3%	47.9%
関西方面	123,100 人	114,200 人	+ 8,900人	+ 7.8%	21.6%
福岡方面	70,800 人	69,900 人	+ 900人	+ 1.3%	12.4%
名古屋	49,800 人	45,300 人	+ 4,500人	+ 9.9%	8.7%
その他	53,200 人	50,800 人	+ 2,400人	+ 4.7%	9.3%
合計	569,800 人	534,600 人	+ 35,200人	+ 6.6%	100.0%

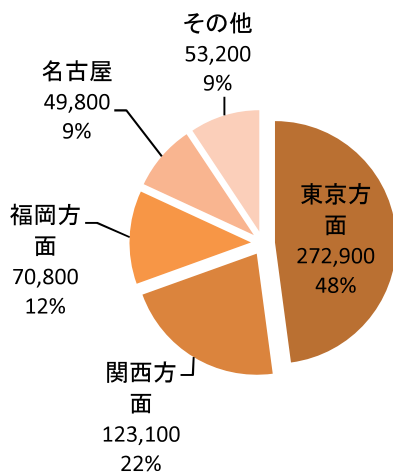
※国内海路客4,200人を含む(鹿児島1,800人、神戸2,400人)

外国客 国籍別入域状況

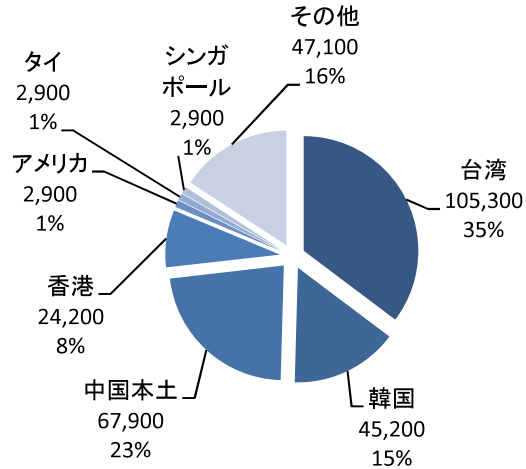
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R1年度	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	105,300 人	105,300 人	95,100 人	+ 10,200人	+10.7%	35.3%
韓国	45,200 人	45,200 人	46,900 人	△ 1,700人	△3.6%	15.1%
中国本土	67,900 人	67,900 人	61,000 人	+ 6,900人	+11.3%	22.8%
香港	24,200 人	24,200 人	23,400 人	+ 800人	+3.4%	8.1%
アメリカ	2,900 人	2,900 人	2,800 人	+ 100人	+3.6%	1.0%
タイ	2,900 人	2,900 人	2,700 人	+ 200人	+7.4%	1.0%
シンガポール	2,900 人	2,900 人	2,700 人	+ 200人	+7.4%	1.0%
その他	47,100 人	8,500 人	40,500 人	+ 6,600人	+16.3%	15.8%
合計	298,400 人	259,800 人	275,100 人	+ 23,300人	+8.5%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	63,300 人	63,300 人	△2.2%	37.3%	42,000 人	42,000 人	+38.2%	32.6%
韓国	45,100 人	45,100 人	△3.6%	26.6%	100 人	100 人	+0.0%	0.1%
中国本土	26,000 人	26,000 人	+4.4%	15.3%	41,900 人	41,900 人	+16.1%	32.6%
香港	21,900 人	21,900 人	+6.8%	12.9%	2,300 人	2,300 人	△20.7%	1.8%
アメリカ	2,400 人	2,400 人	+4.3%	1.4%	500 人	500 人	+0.0%	0.4%
タイ	2,900 人	2,900 人	+11.5%	1.7%	0 人	0 人	△100.0%	0.0%
シンガポール	2,600 人	2,600 人	+8.3%	1.5%	300 人	300 人	+0.0%	0.2%
その他	5,500 人	5,500 人	+25.0%	3.2%	41,600 人	3,000 人	+15.2%	32.3%
合計	169,700 人	169,700 人	+0.7%	100.0%	128,700 人	90,100 人	+20.8%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

6月は、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が安定していたことや旅行会社の商品販売強化の取組があったこと等から、前年を上回った。

7月は、航空会社の提供座席数の増加や、先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が良好であること等から、好調に推移する見込み。

大阪

6月は、航空会社の先行割引航空券の販売が良好であったことや、一般団体旅行の受注が良好であったこと等から、前年を上回った。

7月は、関西-下地島路線の新規就航があることや、旅行会社の離島商品の販売が良好であること等から、好調に推移する見込み。

福岡

6月は、航空会社の提供座席数の増加や、小規模の団体旅行の予約が良好であったこと等から、前年を上回った。

7月は、旅行会社の夏季シーズンの旅行商品の販売強化の取組があることや、団体旅行の予約状況が良好なこと等から、好調に推移する見込み。

名古屋

6月は、航空会社の提供座席数の増加や、ダイナミックパッケージの販売が良好だったこと等から前年を上回った。

7月は、引き続き航空会社の提供座席数の増加や、旅行会社の離島旅行商品の販売が良好なこと等から、好調に推移する見込み。

台湾

6月は、航空会社のストライキの影響が懸念されたものの、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から前年を上回った。

7月は、クルーズ船の寄港回数が減少する予定であるものの、夏休みの旅行需要の高まりが期待されること等から、堅調に推移する見込み。

韓国

6月は、前年同月より航空路線の拡充があったものの、韓中関係の改善による中国への渡航需要の回復やベトナム人気など渡航先の多様化等から、前年を下回った。

7月は、前年同月より航空路線の拡充が予定されているものの、引き続き多方面との競合や、日韓関係悪化の影響が懸念されることから、今後の動向に留意する必要がある。

中国本土

6月は、端午節休暇による旅行需要の高まりがあったことや、前年同月に比べてクルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、前年を上回った。

7月は、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が減少する予定であるものの、航空路線の拡充が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

香港

6月は、LCCの香港-那覇路線の運航再開があったことや、香港発のクルーズ船の寄港が増加したこと等から前年を上回った。

7月は、香港-下地島路線の新規就航があることや、香港発のクルーズ船の寄港が増加する予定であること等から、好調に推移する見込み。

令和元年（2019）7月 入域観光客数概況

令和元年8月発表
(令和元年11月修正)

96万3,600人
対前年（H30）同月比 +77,800人、+8.8%
～7月の過去最高を更新～

入域状況

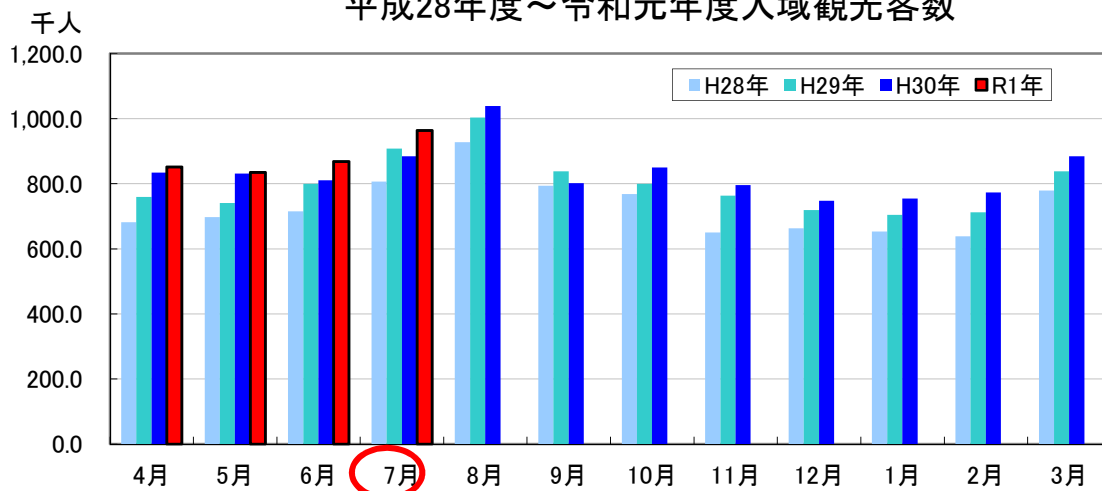
入域観光客数(平成30年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	660,800 人	595,000 人	+ 65,800人	+ 11.1%	68.6%
外国客	302,800 人	290,800 人	+ 12,000人	+ 4.1%	31.4%
合計	963,600 人	885,800 人	+ 77,800人	+ 8.8%	100.0%

【参考】入域観光客数(平成30年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	660,800 人	595,000 人	+ 65,800人	+ 11.1%	71.2%
外国客	266,700 人	254,000 人	+ 12,700人	+ 5.0%	28.8%
合計	927,500 人	849,000 人	+ 78,500人	+ 9.2%	100.0%

平成28年度～令和元年度入域観光客数



国内客 入域状況

7月は、前年同月と比べて航空路線の拡充があったことや、全国高等学校総合体育大会が開幕したこと等から、前年を上回った。

8月は、台風の影響が懸念されるものの、本格的な夏休みシーズンに入り旅行商品の販売が良好なことや、前年同月と比べて航空会社の航空路線の拡充が予定されていること等から、好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

7月は、前年同月より航空路線の拡充があったことや、大型クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、前年を上回った。

8月は、日韓関係悪化による航空路線の減便予定に加え、訪日旅行の自粛の動きがあることや、香港デモによる影響が懸念されること等から、今後の動向に留意する必要がある。

国内客 地域別入域状況

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	330,800 人	305,300 人	+ 25,500人	+ 8.4%	50.1%
関西方面	134,600 人	114,100 人	+ 20,500人	+ 18.0%	20.4%
福岡方面	78,500 人	72,500 人	+ 6,000人	+ 8.3%	11.9%
名古屋	55,700 人	50,900 人	+ 4,800人	+ 9.4%	8.4%
その他	61,200 人	52,200 人	+ 9,000人	+ 17.2%	9.3%
合計	660,800 人	595,000 人	+ 65,800人	+ 11.1%	100.0%

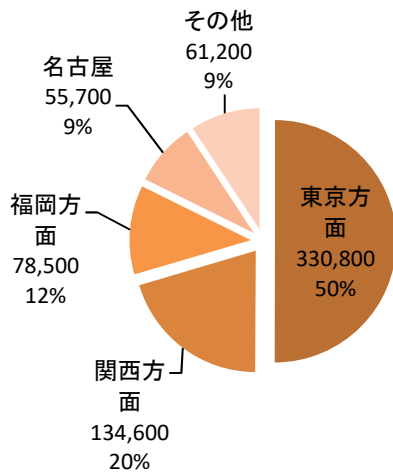
※国内海路客6,900人を含む(鹿児島2,100人、横浜4,200人、大分600人)

外国客 国籍別入域状況

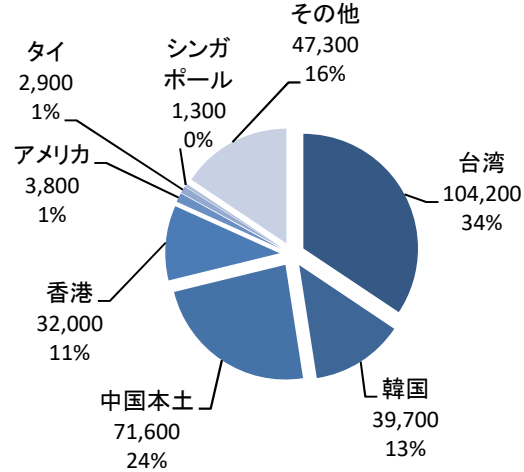
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R1年度	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	104,200 人	104,200 人	104,400 人	△ 200人	△0.2%	34.4%
韓国	39,700 人	39,700 人	41,700 人	△ 2,000人	△4.8%	13.1%
中国本土	71,600 人	71,600 人	64,800 人	+ 6,800人	+10.5%	23.6%
香港	32,000 人	32,000 人	28,000 人	+ 4,000人	+14.3%	10.6%
アメリカ	3,800 人	3,800 人	2,800 人	+ 1,000人	+35.7%	1.3%
タイ	2,900 人	2,900 人	2,700 人	+ 200人	+7.4%	1.0%
シンガポール	1,300 人	1,300 人	1,200 人	+ 100人	+8.3%	0.4%
その他	47,300 人	11,200 人	45,200 人	+ 2,100人	+4.6%	15.6%
合計	302,800 人	266,700 人	290,800 人	+ 12,000人	+4.1%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	68,300 人	68,300 人	+5.2%	39.3%	35,900 人	35,900 人	△9.1%	27.9%
韓国	39,600 人	39,600 人	△4.8%	22.8%	100 人	100 人	+0.0%	0.1%
中国本土	26,800 人	26,800 人	+4.3%	15.4%	44,800 人	44,800 人	+14.6%	34.8%
香港	25,300 人	25,300 人	+15.0%	14.5%	6,700 人	6,700 人	+11.7%	5.2%
アメリカ	2,400 人	2,400 人	+14.3%	1.4%	1,400 人	1,400 人	+100.0%	1.1%
タイ	2,700 人	2,700 人	+3.8%	1.6%	200 人	200 人	+100.0%	0.2%
シンガポール	1,200 人	1,200 人	+9.1%	0.7%	100 人	100 人	+0.0%	0.1%
その他	7,700 人	7,700 人	+26.2%	4.4%	39,600 人	3,500 人	+1.3%	30.7%
合計	174,000 人	174,000 人	+4.8%	100.0%	128,800 人	92,700 人	+3.3%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

7月は、航空会社の提供座席数の増加や、先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が良好であったこと等から、前年を上回った。

8月は、引き続き航空会社の提供座席数の増加や、旅行会社の旅行商品の販売が良好であること等から、好調に推移する見込み。

大阪

7月は、関西-下地島路線の新規就航等の航空路線の拡充があったことや、旅行会社の離島商品の販売が良好であったこと等から、前年を上回った。

8月は、引き続き前年同月に比べて航空路線の拡充が予定されていることや、全国高等学校総合体育大会による団体旅行等の受注が良好であること等から、好調に推移する見込み。

福岡

7月は、旅行会社の夏季シーズンの旅行商品の販売強化の取組があったことや、団体旅行の予約状況が良好だったこと等から、前年を上回った。

8月は、台風の影響が懸念されるものの、全国高等学校総合体育大会による団体旅行等の受注が良好であること等から、好調に推移する見込み。

名古屋

7月は、航空会社の提供座席数の増加や、旅行会社の離島旅行商品の販売が良好だったこと等から前年を上回った。

8月は、引き続き航空会社の提供座席数の増加や、旅行会社の離島旅行商品の販売が良好なこと等から、好調に推移する見込み。

台湾

7月は、個人旅行が良好で空路客は増加したものの、クルーズ船の寄港回数が減少したこと等から前年を下回った。

8月は、クルーズ船の寄港回数が減少する予定であるものの、夏休みの旅行需要の高まりが期待されること等から、堅調に推移する見込み。

韓国

7月は、前年同月に比べて航空路線の拡充があったものの、日韓関係悪化による訪日旅行の自粛の動きがあったこと等から、前年を下回った。

8月は、引き続き日韓関係悪化の影響による旅行商品の予約キャンセルや、航空路線の減便が予定されていること等から、今後の動向に留意する必要がある。

中国本土

7月は、夏休みシーズンによる旅行需要の高まりがあったことや、前年同月に比べて航空路線の拡充があったこと等から、前年を上回った。

8月は、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が減少する予定であるものの、航空路線の拡充が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

香港

7月は、香港-下地島路線の新規就航等があったことや、香港発のクルーズ船の寄港が増加したこと等から前年を上回った。

8月は、香港デモによる影響が懸念されるものの、前年同月より航空路線の拡充が予定されていることや、香港発のクルーズ船の寄港が増加する予定であること等から、堅調に推移する見込み。

令和元年（2019）8月 入域観光客数概況

令和元年9月発表
(令和元年11月修正)

102万1,200人
対前年(H30)同月比 △20,300人、△1.9%
～8月における過去2番目の入域観光客数～

入域状況

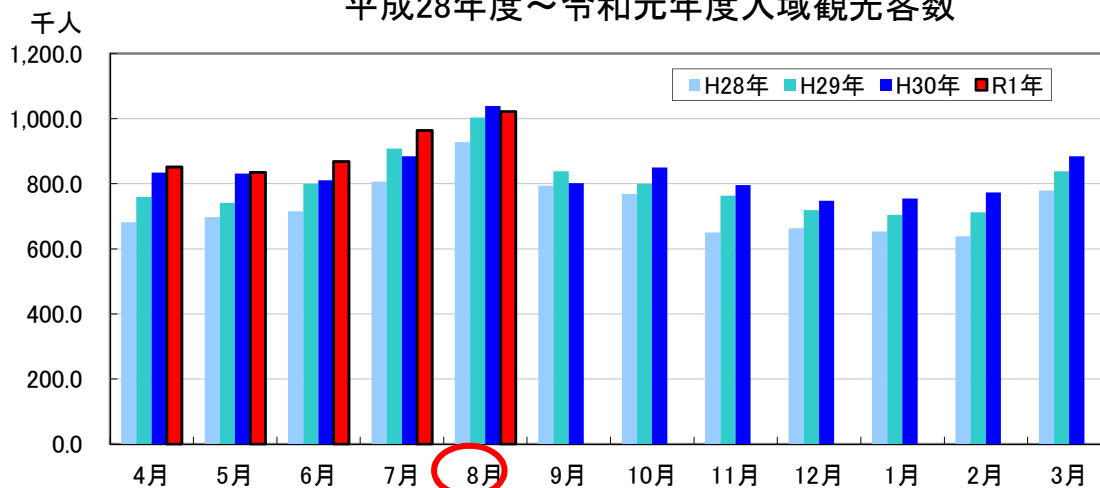
入域観光客数(平成30年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	738,300 人	741,500 人	△ 3,200人	△ 0.4%	72.3%
外国客	282,900 人	300,000 人	△ 17,100人	△ 5.7%	27.7%
合計	1,021,200 人	1,041,500 人	△ 20,300人	△ 1.9%	100.0%

【参考】入域観光客数(平成30年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	738,300 人	741,500 人	△ 3,200人	△ 0.4%	75.0%
外国客	246,700 人	261,200 人	△ 14,500人	△ 5.6%	25.0%
合計	985,000 人	1,002,700 人	△ 17,700人	△ 1.8%	100.0%

平成28年度～令和元年度入域観光客数



国内客 入域状況

8月は、前年同月と比べて航空路線の拡充があったものの、台風の影響による航空路線の欠航があったこと等から、前年を下回った。
9月は引き続き台風の影響が懸念されるものの、前年同月と比べて航空路線の拡充が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

8月は、韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便に加え、香港デモの影響による空港の閉鎖があったこと等から、前年を下回った。
9月は、引き続き韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便が予定されていること等から、厳しい状況が予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	357,200 人	362,800 人	△ 5,600人	△ 1.5%	48.4%
関西方面	160,200 人	156,000 人	+ 4,200人	+ 2.7%	21.7%
福岡方面	88,300 人	88,800 人	△ 500人	△ 0.6%	12.0%
名古屋	64,200 人	62,300 人	+ 1,900人	+ 3.0%	8.7%
その他	68,400 人	71,600 人	△ 3,200人	△ 4.5%	9.3%
合計	738,300 人	741,500 人	△ 3,200人	△ 0.4%	100.0%

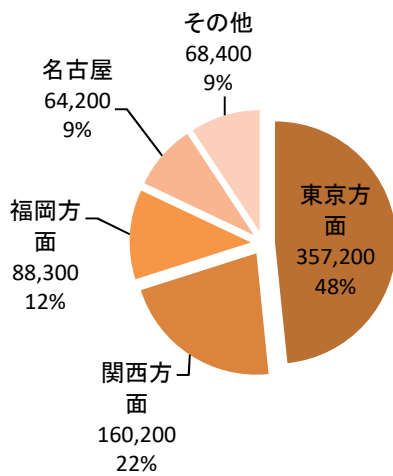
※国内海路客2,400人を含む(鹿児島2,400人)

外国客 国籍別入域状況

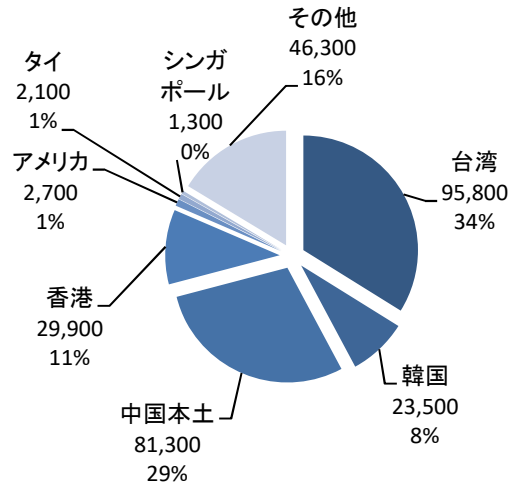
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R1年度	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	95,800 人	95,800 人	91,700 人	+ 4,100人	+4.5%	33.9%
韓国	23,500 人	23,500 人	42,000 人	△ 18,500人	△44.0%	8.3%
中国本土	81,300 人	81,300 人	77,200 人	+ 4,100人	+5.3%	28.7%
香港	29,900 人	29,900 人	32,300 人	△ 2,400人	△7.4%	10.6%
アメリカ	2,700 人	2,700 人	2,300 人	+ 400人	+17.4%	1.0%
タイ	2,100 人	2,100 人	2,400 人	△ 300人	△12.5%	0.7%
シンガポール	1,300 人	1,300 人	900 人	+ 400人	+44.4%	0.5%
その他	46,300 人	10,100 人	51,200 人	△ 4,900人	△9.6%	16.4%
合計	282,900 人	246,700 人	300,000 人	△ 17,100人	△5.7%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	64,900 人	64,900 人	+0.3%	43.3%	30,900 人	30,900 人	+14.4%	23.3%
韓国	23,300 人	23,300 人	△44.4%	15.5%	200 人	200 人	+100.0%	0.2%
中国本土	27,000 人	27,000 人	+3.4%	18.0%	54,300 人	54,300 人	+6.3%	40.9%
香港	22,900 人	22,900 人	△4.6%	15.3%	7,000 人	7,000 人	△15.7%	5.3%
アメリカ	2,100 人	2,100 人	+16.7%	1.4%	600 人	600 人	+20.0%	0.5%
タイ	2,000 人	2,000 人	△9.1%	1.3%	100 人	100 人	△50.0%	0.1%
シンガポール	1,200 人	1,200 人	+50.0%	0.8%	100 人	100 人	+0.0%	0.1%
その他	6,600 人	6,600 人	+50.0%	4.4%	39,700 人	3,500 人	△15.2%	29.9%
合計	150,000 人	150,000 人	△9.6%	100.0%	132,900 人	96,700 人	△0.9%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

8月は、お盆休みの日並びが良かったものの、台風の影響による航空路線の欠航や、ツアーキャンセルの発生あったこと等から、前年を下回った。
9月は、引き続き台風の影響が懸念されるものの、先行割引航空券やダイナミックパッケージが販売が良好であること等から、堅調に推移する見込み。

大阪

8月は、台風の影響による航空路線の欠航があったものの、前年同月に比べて航空路線の拡充があったことや、全国高等学校総合体育大会による団体旅行等の受注が良好であったこと等から、前年を上回った。
9月は、引き続き台風の影響が懸念されるものの、前年同月に比べて航空路線の拡充が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

福岡

8月は、全国高等学校総合体育大会による団体旅行等の受注が良好であったものの、台風の影響による航空路線の欠航があったこと等から、前年を下回った。
9月は、引き続き台風の影響が懸念されるものの、一部旅行会社の旅行商品の販売が良好であることや団体旅行の販売強化の取り組みがあること等から、堅調に推移する見込み。

名古屋

8月は、台風の影響による航空路線の欠航があったものの、航空会社の提供座席数の増加や旅行会社の離島旅行商品の販売が良好だったこと等から前年を上回った。
9月は、引き続き台風の影響が懸念されるものの、航空会社の提供座席数の増加や、旅行会社の離島旅行商品の販売が良好なこと等から、堅調に推移する見込み。

台湾

8月は、夏休みの旅行需要の高まりがあったことや、大型クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から前年を上回った。
9月は、クルーズ船の寄港回数が減少する予定であるものの、中秋節連休の旅行需要の高まりが期待されること等から、堅調に推移する見込み。

韓国

8月は、訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便に加え、韓中関係改善による中国への渡航需要の回復やベトナム人気など渡航先の多様化等から、前年を下回った。
9月は、引き続き訪日旅行自粛の動きに加え、航空路線の減便が予定されていること等から、厳しい状況が予想される。

中国本土

8月は、夏休みシーズンによる旅行需要の高まりがあったことや、前年同月に比べて航空路線の拡充があったこと等から、前年を上回った。
9月は、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が増加する予定であることや、中秋節連休の旅行需要の高まりが期待されること等から、堅調に推移する見込み。

香港

8月は、前年同月より航空路線の拡充があったものの、香港デモによる空港閉鎖があったこと等から前年を下回った。
9月は、引き続き香港デモの影響が懸念されるものの、前年同月に比べて航空路線の拡充が予定されていることや、香港発のクルーズ船の寄港回数が増加する予定であること等から、堅調に推移する見込み。

令和元年（2019）9月 入域観光客数概況

80万9,300人
対前年（H30）同月比 +7,800人、+1.0%
～9月における過去2番目の入域観光客数～

入域状況

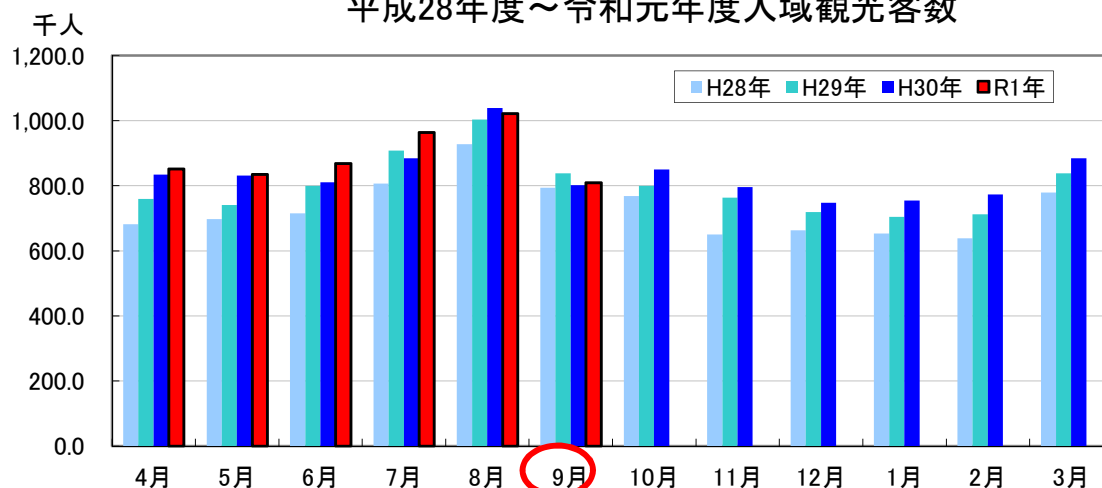
入域観光客数（平成30年度との比較）※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	590,600 人	571,000 人	+ 19,600人	+ 3.4%	73.0%
外国客	218,700 人	230,500 人	△ 11,800人	△ 5.1%	27.0%
合計	809,300 人	801,500 人	+ 7,800人	+ 1.0%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成30年度との比較）※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	590,600 人	571,000 人	+ 19,600人	+ 3.4%	75.8%
外国客	188,200 人	204,100 人	△ 15,900人	△ 7.8%	24.2%
合計	778,800 人	775,100 人	+ 3,700人	+ 0.5%	100.0%

平成28年度～令和元年度入域観光客数



国内客 入域状況

9月は、台風の影響による航空路線の欠航があったものの、昨年は関西国際空港の一時閉鎖に伴う航空路線の欠航があったこと等から、前年を上回った。

10月は引き続き台風の影響が懸念されるものの、今年は即位礼正殿の儀の休日があることや、大手旅行会社の沖縄旅行キャンペーン強化の取組があること等から、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

9月は、クルーズ船の寄港回数の増加により海路客は増えたものの、韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便があったこと等から、前年を下回った。

10月は、引き続き韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便が予定されていること等から、厳しい状況が予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	296,100 人	294,100 人	+ 2,000人	+ 0.7%	50.1%
関西方面	122,000 人	101,000 人	+ 21,000人	+ 20.8%	20.7%
福岡方面	72,600 人	75,700 人	△ 3,100人	△ 4.1%	12.3%
名古屋	48,500 人	48,200 人	+ 300人	+ 0.6%	8.2%
その他	51,400 人	52,000 人	△ 600人	△ 1.2%	8.7%
合計	590,600 人	571,000 人	+ 19,600人	+ 3.4%	100.0%

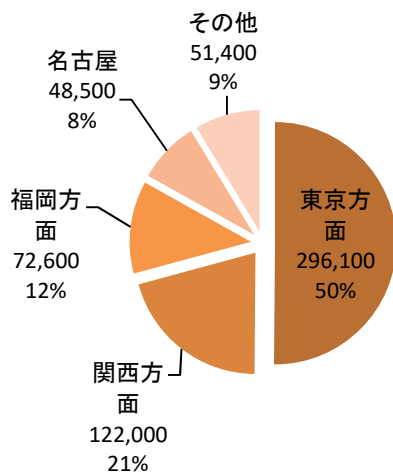
※国内海路客1,300人を含む(鹿児島1,300人)

外国客 国籍別入域状況

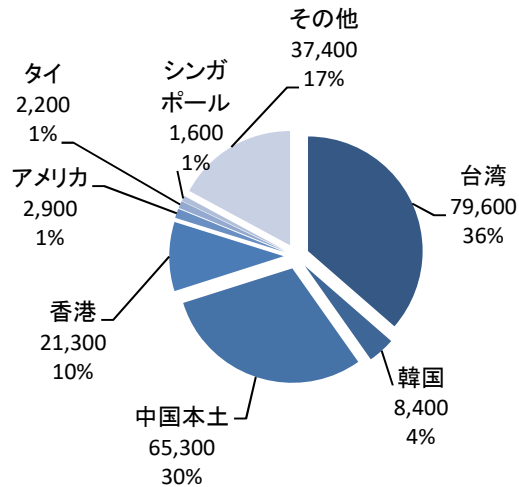
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R1年度	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	79,600 人	79,600 人	81,700 人	△ 2,100人	△2.6%	36.4%
韓国	8,400 人	8,400 人	40,200 人	△ 31,800人	△79.1%	3.8%
中国本土	65,300 人	65,300 人	52,300 人	+ 13,000人	+24.9%	29.9%
香港	21,300 人	21,300 人	18,800 人	+ 2,500人	+13.3%	9.7%
アメリカ	2,900 人	2,900 人	1,700 人	+ 1,200人	+70.6%	1.3%
タイ	2,200 人	2,200 人	1,800 人	+ 400人	+22.2%	1.0%
シンガポール	1,600 人	1,600 人	1,000 人	+ 600人	+60.0%	0.7%
その他	37,400 人	6,900 人	33,000 人	+ 4,400人	+13.3%	17.1%
合計	218,700 人	188,200 人	230,500 人	△ 11,800人	△5.1%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	61,800 人	61,800 人	+2.1%	51.2%	17,800 人	17,800 人	△16.0%	18.2%
韓国	8,300 人	8,300 人	△79.3%	6.9%	100 人	100 人	+0.0%	0.1%
中国本土	21,000 人	21,000 人	△10.6%	17.4%	44,300 人	44,300 人	+53.8%	45.3%
香港	19,100 人	19,100 人	+16.5%	15.8%	2,200 人	2,200 人	△8.3%	2.2%
アメリカ	1,700 人	1,700 人	+6.3%	1.4%	1,200 人	1,200 人	+1100.0%	1.2%
タイ	2,200 人	2,200 人	+29.4%	1.8%	0 人	0 人	皆減	0.0%
シンガポール	1,500 人	1,500 人	+66.7%	1.2%	100 人	100 人	+0.0%	0.1%
その他	5,200 人	5,200 人	+30.0%	4.3%	32,200 人	1,700 人	+11.0%	32.9%
合計	120,800 人	120,800 人	△18.8%	100.0%	97,900 人	67,400 人	+19.7%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

9月は、台風の影響による航空路線の欠航があったものの、先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が安定していたこと等から、前年を上回った。
10月は、引き続き台風の影響が懸念されるものの、先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が良好であること等から、堅調に推移する見込み。

大阪

9月は、台風の影響による航空路線の欠航があったものの、昨年は関西国際空港の一時閉鎖に伴う航空路線の欠航があったこと等から、前年を上回った。
10月は、引き続き台風の影響が懸念されるものの、大手旅行会社の沖縄旅行キャンペーン強化の取組があること等から、堅調に推移する見込み。

福岡

9月は、先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が安定していたものの、台風の影響による航空路線の欠航があったこと等から、前年を下回った。
10月は、引き続き台風の影響が懸念されるものの、大手旅行会社の沖縄旅行キャンペーン強化の取組があること等から、堅調に推移する見込み。

名古屋

9月は、台風の影響による航空路線の欠航があったものの、航空会社の提供座席数の増加や旅行会社の離島旅行商品の販売が良好だったこと等から前年を上回った。
10月は、引き続き台風の影響が懸念されるものの、航空会社の提供座席数の増加やダイナミックパッケージの販売が安定していること等から、堅調に推移する見込み。

台湾

9月は、中秋節連休の旅行需要の高まり等により空路客は増加したものの、クルーズ船の寄港回数が減少したこと等から前年を下回った。
10月は、クルーズ船の寄港回数が増加する予定であることや、国慶節連休の旅行需要の高まりが期待されること等から、好調に推移する見込み。

韓国

9月は、訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便に加え、韓中関係改善による中国への渡航需要の回復やベトナム人気など渡航先の多様化等から、前年を下回った。
10月は、引き続き訪日旅行自粛の動きに加え、航空路線の減便が予定されていること等から、厳しい状況が予想される。

中国本土

9月は、中秋節連休の旅行需要の高まりがあったことや、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、前年を上回った。
10月は、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が減少する予定であるものの、国慶節連休の旅行需要の高まりが期待されること等から、堅調に推移する見込み。

香港

9月は、香港デモの影響が懸念されたものの、前年同月に比べて航空路線の拡充あったこと等から前年を上回った。
10月は、引き続き香港デモの影響が懸念されるものの、前年同月に比べて航空路線の拡充が予定されていることや、香港発のクルーズ船の寄港回数が増加する予定であること等から、好調に推移する見込み。

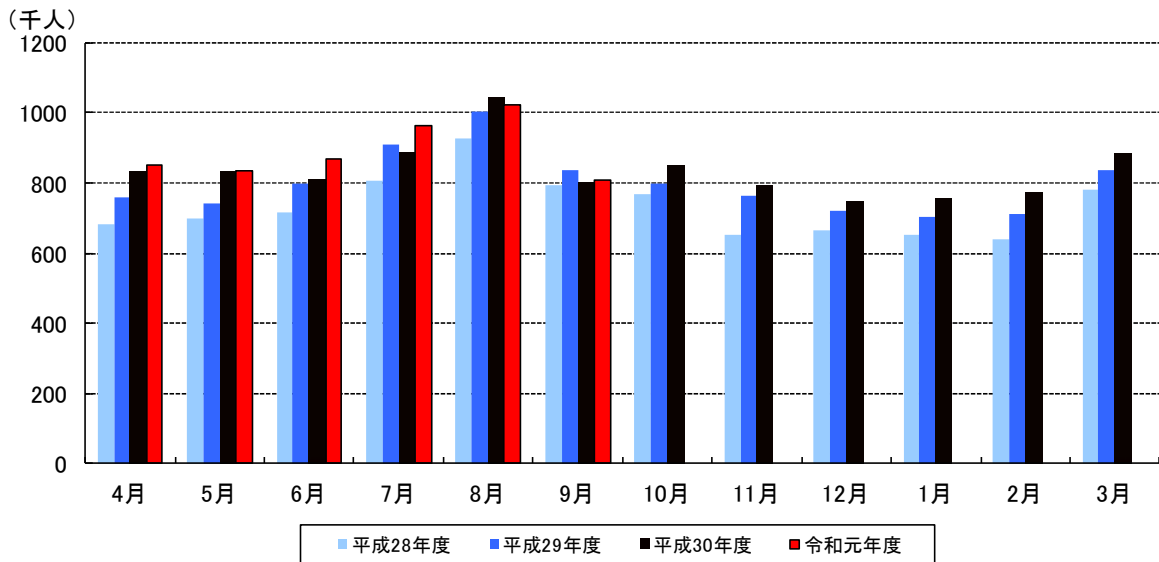
令和元年度上半期 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
令和元年 10 月発表
(令和元年 11 月修正)

令和元年度上半期は、534 万 8,600 人で過去最高を更新
対前年度(H30)比 +14 万 6,000 人、+2.8%

入域観光客数（国内+外国）

■月別入域観光客数の推移（平成 28 年度～令和元年度）



■令和元年度上半期入域観光客の状況（平成 30 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和元年度	851,400	834,900	868,200	963,600	1,021,200	809,300	5,348,600
平成30年度	833,200	830,900	809,700	885,800	1,041,500	801,500	5,202,600
増減数	18,200	4,000	58,500	77,800	-20,300	7,800	146,000
増減率	2.2%	0.5%	7.2%	8.8%	-1.9%	1.0%	2.8%

■令和元年度上半期の概況（総括）

令和元年度上半期の入域観光客数は、534 万 8,600 人となり、対前年同期比で 14 万 6,000 人増加、率にして 2.8%増となった。月別では、7 月までは対前年同月を上回るとともに、当該月の過去最高を上回る客数を記録した。8 月以降は韓国市場の減速による影響が顕在化しており、8 月については前年同月を下回る客数となった。

前年度上半期と比べて増加した主な要因は、次のとおりと考えられる。

- 行政や民間が一体となった誘客プロモーションの効果
- 国内航空路線の拡充
- 昨年は麻しん発生や自然災害の影響が大きかったことによる反動

国内観光客についての動向

■令和元年度上半期国内観光客の状況（平成30年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和元年度	601,100	566,500	569,800	660,800	738,300	590,600	3,727,100
平成30年度	556,400	514,600	534,600	595,000	741,500	571,000	3,513,100
増減数	44,700	51,900	35,200	65,800	-3,200	19,600	214,000
増減率	8.0%	10.1%	6.6%	11.1%	-0.4%	3.4%	6.1%

■国内観光客の概況

ゴールデンウィークが10連休となり4月では初めて60万人を超えたことや、関西ー下地島（宮古）路線の新規就航等を含む航空路線の拡充（※）があったこと等から、前年を上回った。

下半期は、景気のゆるやかな回復基調が続いていることや、引き続き航空路線の拡充が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

※新規就航のあった路線：関西ー下地島（宮古）

主な増便のあった路線：神戸ー那覇、中部ー那覇

外国人観光客についての動向

■令和元年度上半期外国人観光客の状況（平成30年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和元年度	250,300	268,400	298,400	302,800	282,900	218,700	1,621,500
平成30年度	276,800	316,300	275,100	290,800	300,000	230,500	1,689,500
増減数	-26,500	-47,900	23,300	12,000	-17,100	-11,800	-68,000
増減率	-9.6%	-15.1%	8.5%	4.1%	-5.7%	-5.1%	-4.0%

■外国人観光客の概況

ゴールデンウィークに伴う旅行商品の高騰や、クルーズ船の寄港回数が減少したことに加え、韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便等から前年を下回った。国籍・地域別では、台湾及び中国は前年並み、香港は好調に推移している。

下半期は、引き続き韓国市場の影響が懸念ことから、厳しい状況が予想される。

※新規就航等主な増便のあった路線：香港ー那覇

令和元年（2019）10月 入域観光客数概況

85万1,300人
対前年（H30）同月比 +2,000人、+0.2%
～10月の過去最高を更新～

入域状況

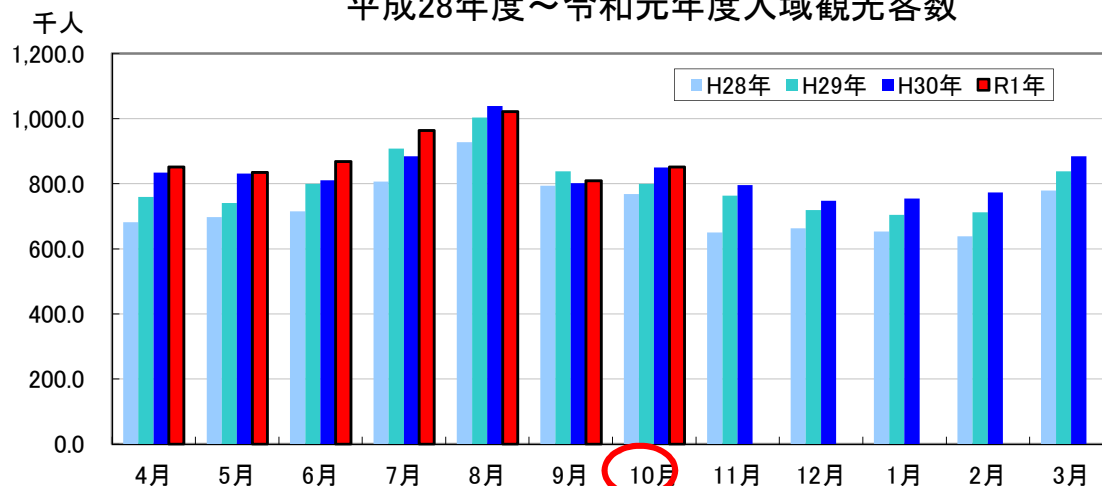
入域観光客数（平成30年度との比較）※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	620,800 人	602,800 人	+ 18,000人	+ 3.0%	72.9%
外国客	230,500 人	246,500 人	△ 16,000人	△ 6.5%	27.1%
合計	851,300 人	849,300 人	+ 2,000人	+ 0.2%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成30年度との比較）※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	620,800 人	602,800 人	+ 18,000人	+ 3.0%	76.0%
外国客	195,700 人	215,100 人	△ 19,400人	△ 9.0%	24.0%
合計	816,500 人	817,900 人	△ 1,400人	△ 0.2%	100.0%

平成28年度～令和元年度入域観光客数



国内客 入域状況

10月は、台風の影響による航空路線の欠航があったものの、大手旅行会社の沖縄旅行キャンペーン強化の取組があったことや、今年はい位礼正殿の儀の休日があったこと等から、前年を上回った。

11月は、引き続き大手旅行会社の沖縄旅行キャンペーン強化の取組があることや、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が良好であること等から、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

10月は、クルーズ船の寄港回数の増加により海路客は増えたものの、韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便があったこと等から、前年を下回った。

11月は、引き続き韓国市場における訪日旅行自粛の動きや、航空路線の減便が予定されていること等から、厳しい状況が予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	300,100 人	304,700 人	△ 4,600人	△ 1.5%	48.3%
関西方面	119,100 人	113,800 人	+ 5,300人	+ 4.7%	19.2%
福岡方面	80,700 人	76,200 人	+ 4,500人	+ 5.9%	13.0%
名古屋	55,300 人	50,500 人	+ 4,800人	+ 9.5%	8.9%
その他	65,600 人	57,600 人	+ 8,000人	+ 13.9%	10.6%
合計	620,800 人	602,800 人	+ 18,000人	+ 3.0%	100.0%

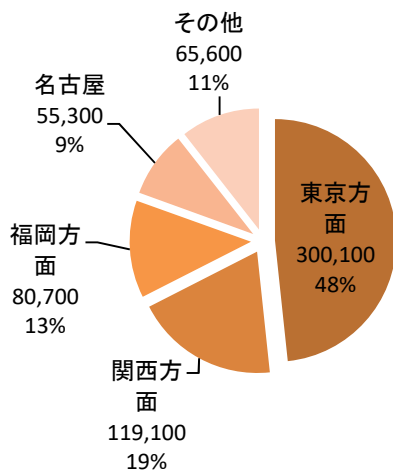
※国内海路客5,600人を含む(鹿児島1,700人、横浜3,900人)

外国客 国籍別入域状況

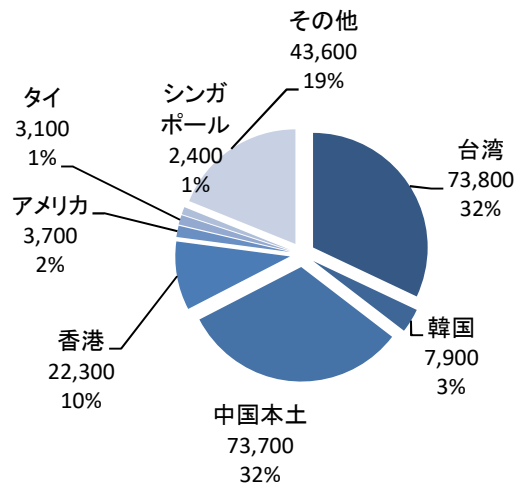
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R1年度	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	73,800 人	73,800 人	69,900 人	+ 3,900人	+5.6%	32.0%
韓国	7,900 人	7,900 人	41,400 人	△ 33,500人	△80.9%	3.4%
中国本土	73,700 人	73,700 人	59,500 人	+ 14,200人	+23.9%	32.0%
香港	22,300 人	22,300 人	20,000 人	+ 2,300人	+11.5%	9.7%
アメリカ	3,700 人	3,700 人	5,900 人	△ 2,200人	△37.3%	1.6%
タイ	3,100 人	3,100 人	2,500 人	+ 600人	+24.0%	1.3%
シンガポール	2,400 人	2,400 人	1,600 人	+ 800人	+50.0%	1.0%
その他	43,600 人	8,800 人	45,700 人	△ 2,100人	△4.6%	18.9%
合計	230,500 人	195,700 人	246,500 人	△ 16,000人	△6.5%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	60,400 人	60,400 人	+0.8%	49.1%	13,400 人	13,400 人	+34.0%	12.5%
韓国	7,900 人	7,900 人	△80.9%	6.4%	0 人	0 人	△100.0%	0.0%
中国本土	19,800 人	19,800 人	△7.0%	16.1%	53,900 人	53,900 人	+41.1%	50.2%
香港	20,500 人	20,500 人	+25.0%	16.7%	1,800 人	1,800 人	△50.0%	1.7%
アメリカ	2,100 人	2,100 人	+23.5%	1.7%	1,600 人	1,600 人	△61.9%	1.5%
タイ	3,000 人	3,000 人	+25.0%	2.4%	100 人	100 人	+0.0%	0.1%
シンガポール	2,300 人	2,300 人	+64.3%	1.9%	100 人	100 人	△50.0%	0.1%
その他	7,100 人	7,100 人	+26.8%	5.8%	36,500 人	1,700 人	△9.0%	34.0%
合計	123,100 人	123,100 人	△17.9%	100.0%	107,400 人	72,600 人	+11.3%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

10月は、先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が安定していたものの、台風の影響による航空路線の欠航があったこと等から、前年を下回った。

11月は、引き続き大手旅行会社の沖縄旅行キャンペーン強化の取組があることや、先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が安定していること等から、堅調に推移する見込み。

大阪

10月は、大手旅行会社の沖縄旅行キャンペーン強化の取組があったことや、今年は即位礼正殿の儀の休日があったこと等から、前年を上回った。

11月は、引き続き大手旅行会社の沖縄旅行キャンペーン強化の取組があることや、旅行会社の離島旅行商品の販売が安定していること等から、堅調に推移する見込み。

福岡

10月は、航空会社の提供座席数の増加があったことや、今年は即位礼正殿の儀の休日があったこと等から、前年を上回った。

11月は、大手旅行会社の沖縄旅行キャンペーン強化の取組があることや、団体旅行の受注が安定していること等から、堅調に推移する見込み。

名古屋

10月は、航空会社の提供座席数の増加に加え、旅行会社の離島旅行商品の販売が良好だったことや、今年は即位礼正殿の儀の休日があったこと等から前年を上回った。

11月は、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が安定していることや、旅行会社の離島旅行商品の販売が安定していること等から、堅調に推移する見込み。

台湾

10月は、国慶節連休の旅行需要の高まりがあったことや、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から前年を上回った。

11月は、クルーズ船の寄港回数が増加する予定であることや、台中-下地島(宮古)間のチャーター便の運航が予定されていること等から、好調に推移する見込み。

韓国

10月は、訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便に加え、韓中関係改善による中国への渡航需要の回復やベトナム人気など渡航先の多様化等から、前年を下回った。

11月は、引き続き訪日旅行自粛の動きに加え、航空路線の減便が予定されていること等から、厳しい状況が予想される。

中国本土

10月は、国慶節連休の旅行需要の高まりがあったことや、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、前年を上回った。

11月は、インセンティブ旅行の需要の高まりがみられることや、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が増加する予定である等から、好調に推移する見込み。

香港

10月は、香港デモの影響が懸念されたものの、前年同月に比べて航空路線の拡充があったこと等から前年を上回った。

11月は、引き続き香港デモの影響が懸念されるものの、前年同月に比べて航空路線の拡充が予定されていることや、香港発のクルーズ船の寄港回数が増加する予定であること等から、好調に推移する見込み。

令和元年（2019）11月 入域観光客数概況

79万9,200人
対前年（H30）同月比 +4,000人、+0.5%
～11月の過去最高を更新～

入域状況

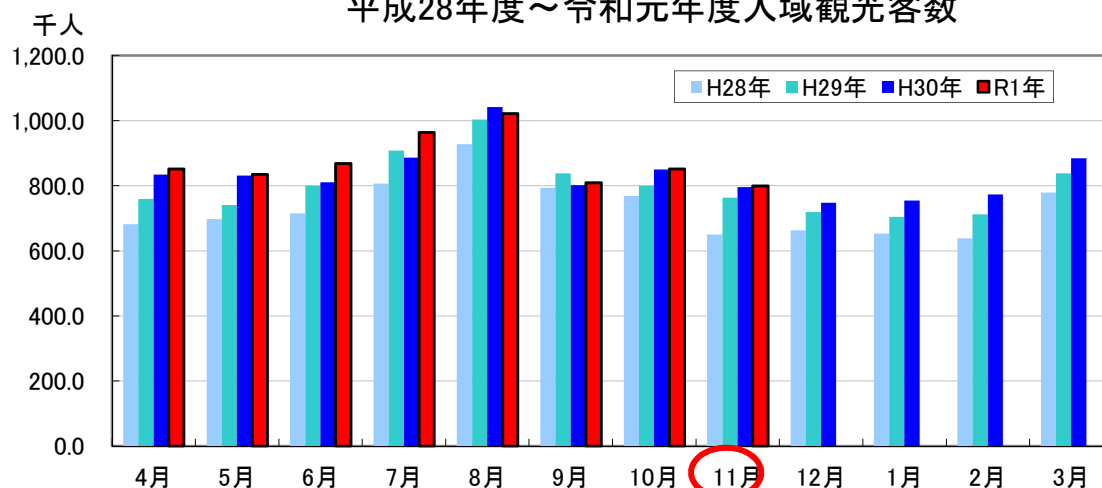
入域観光客数（平成30年度との比較） ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	600,100 人	604,100 人	△ 4,000人	△ 0.7%	75.1%
外国客	199,100 人	191,100 人	+ 8,000人	+ 4.2%	24.9%
合計	799,200 人	795,200 人	+ 4,000人	+ 0.5%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成30年度との比較） ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	600,100 人	604,100 人	△ 4,000人	△ 0.7%	78.4%
外国客	164,900 人	166,300 人	△ 1,400人	△ 0.8%	21.6%
合計	765,000 人	770,400 人	△ 5,400人	△ 0.7%	100.0%

平成28年度～令和元年度入域観光客数



国内客 入域状況

11月は、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が安定していたものの、昨年のおきなわ技能五輪・アビリンピックの開催による反動等から、前年を下回った。

12月は、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が良好であることや、年末年始の旅行需要の高まりが期待されること等から、好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

11月は、韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便により空路客は減少したものの、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、前年を上回った。

12月は、引き続き韓国市場における訪日旅行自粛の動きや、航空路線の減便が予定されているものの、香港市場における航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数が増加する予定であること等から、堅調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	291,900 人	297,500 人	△ 5,600人	△ 1.9%	48.6%
関西方面	116,900 人	112,900 人	+ 4,000人	+ 3.5%	19.5%
福岡方面	78,400 人	77,300 人	+ 1,100人	+ 1.4%	13.1%
名古屋	50,600 人	50,100 人	+ 500人	+ 1.0%	8.4%
その他	62,300 人	66,300 人	△ 4,000人	△ 6.0%	10.4%
合計	600,100 人	604,100 人	△ 4,000人	△ 0.7%	100.0%

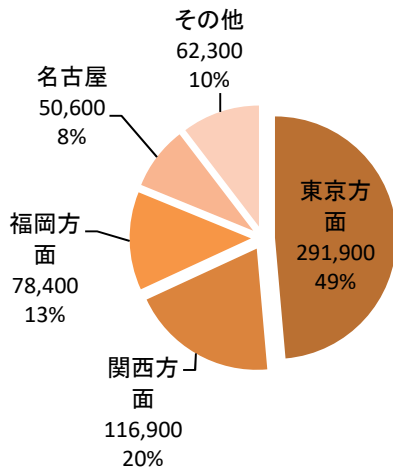
※国内海路客4,000人を含む(鹿児島1,800人、横浜2,200人)

外国客 国籍別入域状況

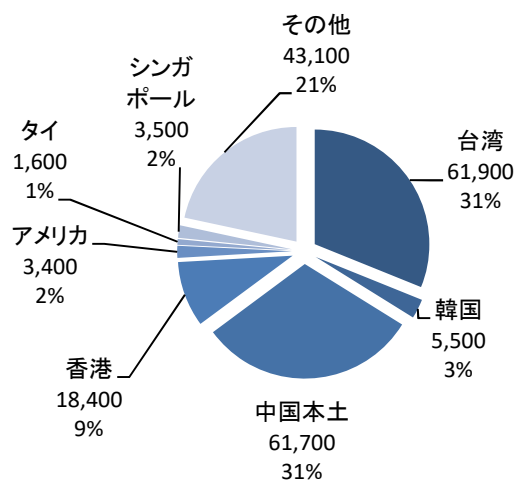
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R1年度	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	61,900 人	61,900 人	52,200 人	+ 9,700人	+18.6%	31.1%
韓国	5,500 人	5,500 人	43,100 人	△ 37,600人	△87.2%	2.8%
中国本土	61,700 人	61,700 人	35,000 人	+ 26,700人	+76.3%	31.0%
香港	18,400 人	18,400 人	14,700 人	+ 3,700人	+25.2%	9.2%
アメリカ	3,400 人	3,400 人	4,300 人	△ 900人	△20.9%	1.7%
タイ	1,600 人	1,600 人	1,700 人	△ 100人	△5.9%	0.8%
シンガポール	3,500 人	3,500 人	2,500 人	+ 1,000人	+40.0%	1.8%
その他	43,100 人	8,900 人	37,600 人	+ 5,500人	+14.6%	21.6%
合計	199,100 人	164,900 人	191,100 人	+ 8,000人	+4.2%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	48,100 人	48,100 人	+13.7%	49.1%	13,800 人	13,800 人	+39.4%	13.6%
韓国	5,500 人	5,500 人	△87.2%	5.6%	0 人	0 人	△100.0%	0.0%
中国本土	13,500 人	13,500 人	△12.3%	13.8%	48,200 人	48,200 人	+145.9%	47.6%
香港	17,200 人	17,200 人	+29.3%	17.6%	1,200 人	1,200 人	△14.3%	1.2%
アメリカ	2,300 人	2,300 人	+9.5%	2.3%	1,100 人	1,100 人	△50.0%	1.1%
タイ	1,600 人	1,600 人	△5.9%	1.6%	0 人	0 人	-	0.0%
シンガポール	3,400 人	3,400 人	+41.7%	3.5%	100 人	100 人	+0.0%	0.1%
その他	6,300 人	6,300 人	+26.0%	6.4%	36,800 人	2,600 人	+12.9%	36.4%
合計	97,900 人	97,900 人	△21.8%	100.0%	101,200 人	67,000 人	+53.6%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

11月は、昨年のおきなわ技能五輪・アビリンピックの開催による反動や、前年同月より東京発のクルーズ船の寄港回数が減少したこと等から、前年を下回った。

12月は、先行割引航空券やダイナミックパッケージが販売が良好であることや、年末年始の旅行需要の高まりが期待されること等から、好調に推移する見込み。

大阪

11月は、大手旅行会社の沖縄旅行キャンペーン強化の取組があったことや、前年同月に比べて航空路線の拡充があったこと等から、前年を上回った。

12月は、引き続き前年同月に比べて航空路線の拡充があることや、年末年始の旅行需要の高まりが期待されること等から、好調に推移する見込み。

福岡

11月は、航空会社の提供座席数の増加があったことや、団体旅行の受注が安定していたこと等から、前年を上回った。

12月は、先行割引航空券やダイナミックパッケージが販売が安定していることや、年末年始の旅行需要の高まりが期待されること等から、好調に推移する見込み。

名古屋

11月は、先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が安定していたことや、旅行会社の離島旅行商品の販売が良好だったこと等から前年を上回った。

12月は、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が安定していることや、年末年始の旅行需要の高まりが期待されること等から、好調に推移する見込み。

台湾

11月は、前年同月より航空路線の拡充があったことや、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から前年を上回った。

12月は、引き続き前年同月より航空路線の拡充が予定されていることや、クルーズ船の寄港回数が増加する予定であること等から、好調に推移する見込み。

韓国

11月は、訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便に加え、韓中関係改善による中国への渡航需要の回復やベトナム人気など渡航先の多様化等から、前年を下回った。

12月は、引き続き訪日旅行自粛の動きに加え、航空路線の減便が予定されていること等から、厳しい状況が予想される。

中国本土

11月は、インセンティブ旅行の需要の高まりがあったことや、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、前年を上回った。

12月は、重慶－那覇路線の新規就航が予定されていることや、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が増加する予定である等から、好調に推移する見込み。

香港

11月は、香港デモの影響が懸念されたものの、前年同月に比べて航空路線の拡充があったこと等から前年を上回った。

12月は、引き続き香港デモの影響が懸念されるものの、前年同月に比べて航空路線の拡充が予定されていること等から、好調に推移する見込み。

令和元年（2019）12月 入域観光客数概況

75万5,100人
対前年（H30）同月比 +7,600人、+1.0%
～12月の過去最高を更新～

入域状況

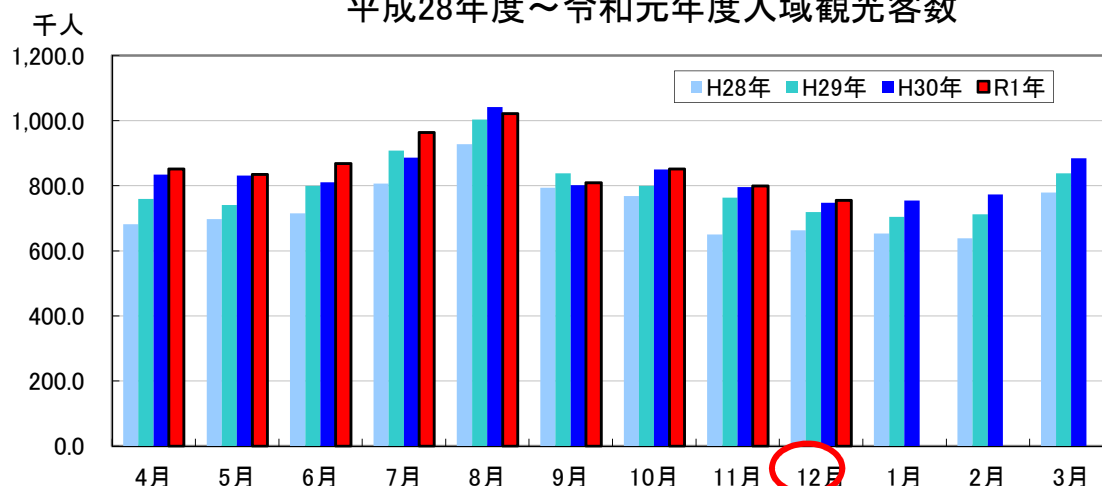
入域観光客数（平成30年度との比較） ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	572,700 人	570,300 人	+ 2,400人	+ 0.4%	75.8%
外国客	182,400 人	177,200 人	+ 5,200人	+ 2.9%	24.2%
合計	755,100 人	747,500 人	+ 7,600人	+ 1.0%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成30年度との比較） ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	572,700 人	570,300 人	+ 2,400人	+ 0.4%	78.5%
外国客	157,000 人	165,300 人	△ 8,300人	△ 5.0%	21.5%
合計	729,700 人	735,600 人	△ 5,900人	△ 0.8%	100.0%

平成28年度～令和元年度入域観光客数



国内客 入域状況

12月は、年末年始の旅行需要の高まりがあったことや、国内クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、前年を上回った。

1月は、引き続き年末年始の旅行需要の高まりが期待されることや、航空会社の提供座席数の増加が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

12月は、韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便により空路客は減少したものの、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、前年を上回った。

1月は、引き続き韓国市場における訪日旅行自粛の動きや、航空路線の減便が予定されているものの、クアラルンプール～那覇路線の新規就航や香港市場における航空路線の拡充等から、堅調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	277,900 人	281,700 人	△ 3,800人	△ 1.3%	48.5%
関西方面	114,000 人	112,700 人	+ 1,300人	+ 1.2%	19.9%
福岡方面	74,000 人	73,100 人	+ 900人	+ 1.2%	12.9%
名古屋	47,300 人	45,900 人	+ 1,400人	+ 3.1%	8.3%
その他	59,500 人	56,900 人	+ 2,600人	+ 4.6%	10.4%
合計	572,700 人	570,300 人	+ 2,400人	+ 0.4%	100.0%

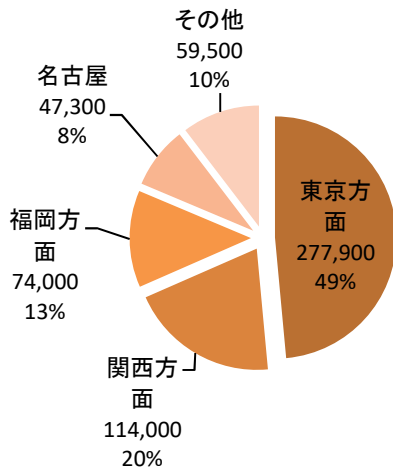
※国内海路客6,700人を含む(鹿児島1,900人、横浜2,800人)

外国客 国籍別入域状況

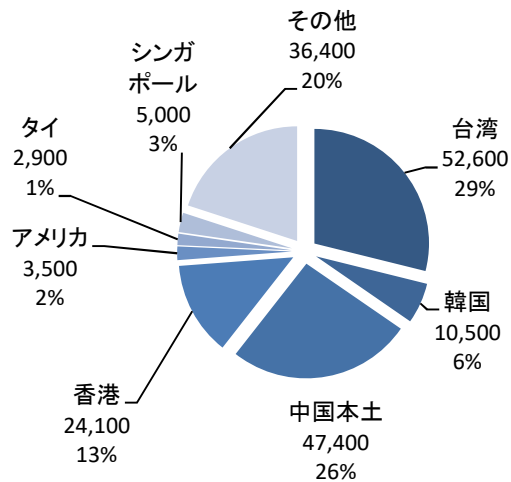
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R1年度	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	52,600 人	52,600 人	48,900 人	+ 3,700人	+7.6%	28.8%
韓国	10,500 人	10,500 人	52,400 人	△ 41,900人	△80.0%	5.8%
中国本土	47,400 人	47,400 人	33,000 人	+ 14,400人	+43.6%	26.0%
香港	24,100 人	24,100 人	15,500 人	+ 8,600人	+55.5%	13.2%
アメリカ	3,500 人	3,500 人	2,400 人	+ 1,100人	+45.8%	1.9%
タイ	2,900 人	2,900 人	2,900 人	± 0人	+0.0%	1.6%
シンガポール	5,000 人	5,000 人	3,800 人	+ 1,200人	+31.6%	2.7%
その他	36,400 人	11,000 人	18,300 人	+ 18,100人	+98.9%	20.0%
合計	182,400 人	157,000 人	177,200 人	+ 5,200人	+2.9%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	41,900 人	41,900 人	△4.1%	39.9%	10,700 人	10,700 人	+105.8%	13.8%
韓国	10,500 人	10,500 人	△80.0%	10.0%	0 人	0 人	—	0.0%
中国本土	14,900 人	14,900 人	△9.7%	14.2%	32,500 人	32,500 人	+97.0%	42.0%
香港	21,300 人	21,300 人	+43.9%	20.3%	2,800 人	2,800 人	+300.0%	3.6%
アメリカ	2,100 人	2,100 人	+10.5%	2.0%	1,400 人	1,400 人	+180.0%	1.8%
タイ	2,800 人	2,800 人	△3.4%	2.7%	100 人	100 人	皆増	0.1%
シンガポール	4,800 人	4,800 人	+26.3%	4.6%	200 人	200 人	皆増	0.3%
その他	6,700 人	6,700 人	+28.8%	6.4%	29,700 人	4,300 人	+126.7%	38.4%
合計	105,000 人	105,000 人	△25.6%	100.0%	77,400 人	52,000 人	+115.0%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

12月は、年末年始の旅行需要の高まりが期待されたものの、昨年より休日が1日少なかったことや、航空会社の提供座席数が減少したこと等から、前年を下回った。

1月は、引き続き年末年始の旅行需要の高まりが期待されることや、離島直行便路線の増便など航空路線の拡充が予定されている等から、堅調に推移する見込み。

大阪

12月は、年末年始の旅行需要の高まりがあったことや、前年同月に比べて航空路線の拡充があったこと等から、前年を上回った。

1月は、引き続き年末年始の旅行需要の高まりが期待されることや、前年同月に比べて航空路線の拡充があること等から、堅調に推移する見込み。

福岡

12月は、年末年始の旅行需要の高まりがあったことや、先行割引航空券やダイナミックパッケージが販売が安定していたこと等から、前年を上回った。

1月は、引き続き年末年始の旅行需要の高まりが期待されることや、大手旅行会社の沖縄旅行キャンペーン強化の取組があること等から、堅調に推移する見込み。

名古屋

12月は、年末年始の旅行需要の高まりがあったことや、航空会社の離島路線の販売が良好だったこと等から前年を上回った。

1月は、引き続き年末年始の旅行需要の高まりが期待されることや、航空会社の離島路線の販売が良好であること等から、堅調に推移する見込み。

台湾

12月は、紅葉・雪見旅行の人気や国内他方面の航空路線の増加により空路客は減少したものの、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が増加したこと等から前年を上回った。

1月は、台北－那覇路線のチャーター便の運航が予定されていることや、クルーズ船の寄港回数が増加する予定であること等から、好調に推移する見込み。

韓国

12月は、訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便に加え、韓中関係改善による中国への渡航需要の回復やベトナム人気など渡航先の多様化等から、前年を下回った。

1月は、引き続き訪日旅行自粛の動きに加え、航空路線の減便が予定されていること等から、厳しい状況が予想される。

中国本土

12月は、天津－那覇路線の減便等により空路客は減少したものの、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、前年を上回った。

1月は、春節による旅行需要の高まりが期待されることや、前年同月より航空路線の拡充が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

香港

12月は、前年同月より航空路線の拡充あったことや、大型クルーズ船の寄港があったこと等から前年を上回った。

1月は、引き続き前年同月に比べて航空路線の拡充が予定されていることや、香港発のクルーズ船の寄港が増加する予定であること等から、好調に推移する見込み。

令和2年(2020)1月 入域観光客数概況

72万7,800人
対前年(H31)同月比 -25,700人、-3.4%
～1月における過去2番目の入域観光客数～

入域状況

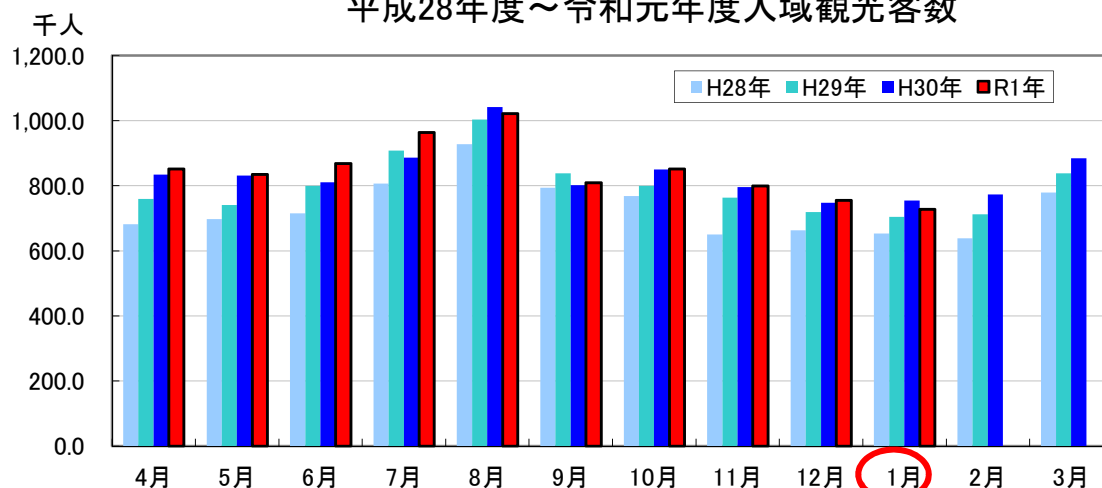
入域観光客数(平成30年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	534,300人	523,700人	+ 10,600人	+ 2.0%	73.4%
外国客	193,500人	229,800人	△ 36,300人	△ 15.8%	26.6%
合計	727,800人	753,500人	△ 25,700人	△ 3.4%	100.0%

【参考】入域観光客数(平成30年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	534,300人	523,700人	+ 10,600人	+ 2.0%	75.9%
外国客	169,200人	202,500人	△ 33,300人	△ 16.4%	24.1%
合計	703,500人	726,200人	△ 22,700人	△ 3.1%	100.0%

平成28年度～令和元年度入域観光客数



国内客 入域状況

1月は、年末年始の旅行需要の高まりがあったことや、航空会社の提供座席数が増加したこと等から、前年を上回った。

2月は、昨年に比べて休暇が1日増えたことやスポーツキャンプ見学等の各種イベントによる旅行需要の高まりが期待されるものの、新型コロナウイルス感染症の発生による旅行自粛の動きが懸念されることから、状況を注視していく必要がある。

外国客 入域状況

1月は、韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便に加え、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、中国市場における団体旅行の販売が禁止されたこと等から、前年を下回った。

2月は、引き続き韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便に加え、新型コロナウイルス感染症の発生による航空路線の減便やクルーズ船の寄港回数の減少等が見込まれており、大幅な減少が予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	259,400 人	253,800 人	+ 5,600人	+ 2.2%	48.5%
関西方面	104,700 人	101,800 人	+ 2,900人	+ 2.8%	19.6%
福岡方面	70,600 人	69,700 人	+ 900人	+ 1.3%	13.2%
名古屋	46,500 人	44,900 人	+ 1,600人	+ 3.6%	8.7%
その他	53,100 人	53,500 人	△ 400人	△ 0.7%	9.9%
合計	534,300 人	523,700 人	+ 10,600人	+ 2.0%	100.0%

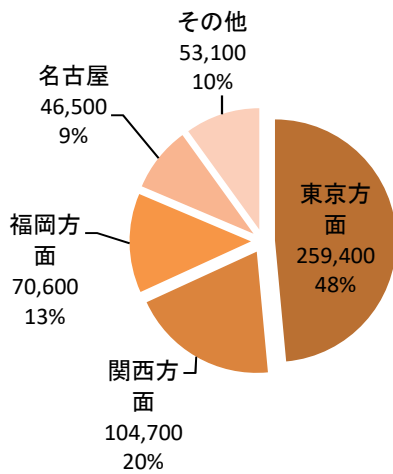
※国内海路客2,200人を含む(鹿児島1,800人、横浜400人)

外国客 国籍別入域状況

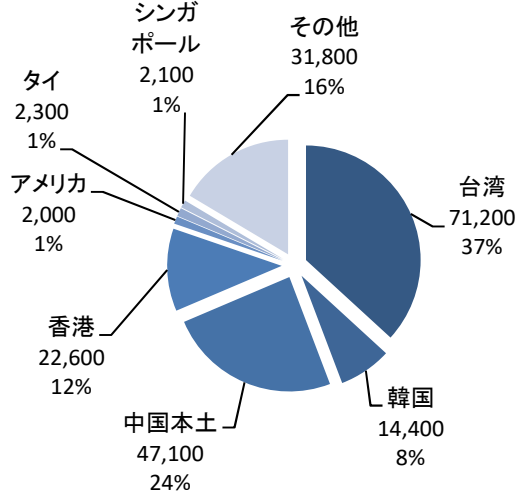
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R1年度	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	71,200 人	71,200 人	55,000 人	+ 16,200人	+29.5%	36.8%
韓国	14,400 人	14,400 人	61,100 人	△ 46,700人	△76.4%	7.4%
中国本土	47,100 人	47,100 人	66,400 人	△ 19,300人	△29.1%	24.3%
香港	22,600 人	22,600 人	10,800 人	+ 11,800人	+109.3%	11.7%
アメリカ	2,000 人	2,000 人	1,700 人	+ 300人	+17.6%	1.0%
タイ	2,300 人	2,300 人	2,400 人	△ 100人	△4.2%	1.2%
シンガポール	2,100 人	2,100 人	1,600 人	+ 500人	+31.3%	1.1%
その他	31,800 人	7,500 人	30,800 人	+ 1,000人	+3.2%	16.4%
合計	193,500 人	169,200 人	229,800 人	△ 36,300人	△15.8%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	56,500 人	56,500 人	+13.0%	46.3%	14,700 人	14,700 人	+194.0%	20.5%
韓国	14,200 人	14,200 人	△76.7%	11.6%	200 人	200 人	+100.0%	0.3%
中国本土	22,500 人	22,500 人	+11.9%	18.5%	24,600 人	24,600 人	△46.9%	34.4%
香港	17,900 人	17,900 人	+72.1%	14.7%	4,700 人	4,700 人	+1075.0%	6.6%
アメリカ	1,600 人	1,600 人	+0.0%	1.3%	400 人	400 人	+300.0%	0.6%
タイ	2,300 人	2,300 人	△4.2%	1.9%	0 人	0 人	-	0.0%
シンガポール	2,100 人	2,100 人	+31.3%	1.7%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	4,800 人	4,800 人	+50.0%	3.9%	27,000 人	2,700 人	△2.2%	37.7%
合計	121,900 人	121,900 人	△18.9%	100.0%	71,600 人	47,300 人	△9.9%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

1月は、年末年始の旅行需要の高まりがあったことや、航空会社の提供座席数が増加したこと等から、前年を上回った。

2月は、昨年と比べて休暇が1日増えたことやスポーツキャンプ見学等の各種イベントによる旅行需要の高まりが期待されるものの、新型コロナウイルス感染症の発生による旅行自粛の動きが懸念されることから、状況を注視していく必要がある。

大阪

1月は、年末年始の旅行需要の高まりがあったことや、航空会社の提供座席数が増加したこと等から、前年を上回った。

2月は、昨年と比べて休暇が1日増えたことやスポーツキャンプ見学等の各種イベントによる旅行需要の高まりが期待されるものの、新型コロナウイルス感染症の発生による旅行自粛の動きが懸念されることから、状況を注視していく必要がある。

福岡

1月は、年末年始の旅行需要の高まりがあったことや、一部旅行会社の旅行商品の販売強化の取組があったこと等から、前年を上回った。

2月は、昨年と比べて休暇が1日増えたことやスポーツキャンプ見学等の各種イベントによる旅行需要の高まりが期待されるものの、新型コロナウイルス感染症の発生による旅行自粛の動きが懸念されることから、状況を注視していく必要がある。

名古屋

1月は、年末年始の旅行需要の高まりがあったことや、航空会社の離島路線の販売が良好だったこと等から前年を上回った。

2月は、昨年と比べて休暇が1日増えたことやスポーツキャンプ見学等の各種イベントによる旅行需要の高まりが期待されるものの、新型コロナウイルス感染症の発生による旅行自粛の動きが懸念されることから、状況を注視していく必要がある。

台湾

1月は、台北－那覇路線のチャーター便の運航があったことや、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が増加したこと等から前年を上回った。

2月は、新型コロナウイルス感染症の発生に伴う訪日旅行自粛の動きや、クルーズ船の寄港回数の減少等から厳しい状況が予想される。

韓国

1月は、訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便に加え、ベトナム人気など渡航先の多様化等から、前年を下回った。

2月は、引き続き訪日旅行自粛の動きに加え、前年同月より航空路線の減便が予定されていること等から、厳しい状況が予想される。

中国本土

1月は、春節による旅行需要の高まりや航空路線の拡充により空路客は増加したものの、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、団体旅行等の販売が禁止されたことやクルーズ船の寄港回数が減少したこと等から、前年を下回った。

2月は、引き続き新型コロナウイルス感染症の流行による団体旅行等の販売が禁止されたことに加え、航空路線の大幅減やクルーズ船の寄港が全てキャンセルとなっていることから、非常に厳しい状況が予想される。

香港

1月は、旧正月休暇による旅行需要の高まりに加え、前年同月より航空路線の拡充があったことや、香港発のクルーズ船の寄港が増加したこと等から前年を上回った。

2月は、新型コロナウイルス感染症の発生に伴う訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便が予定されていること等から厳しい状況が予想される。

令和2年(2020)2月 入域観光客数概況

59万900人
対前年(H31)同月比 -181,300人、-23.5%
～2カ月連続前年同月実績を下回る～

入域状況

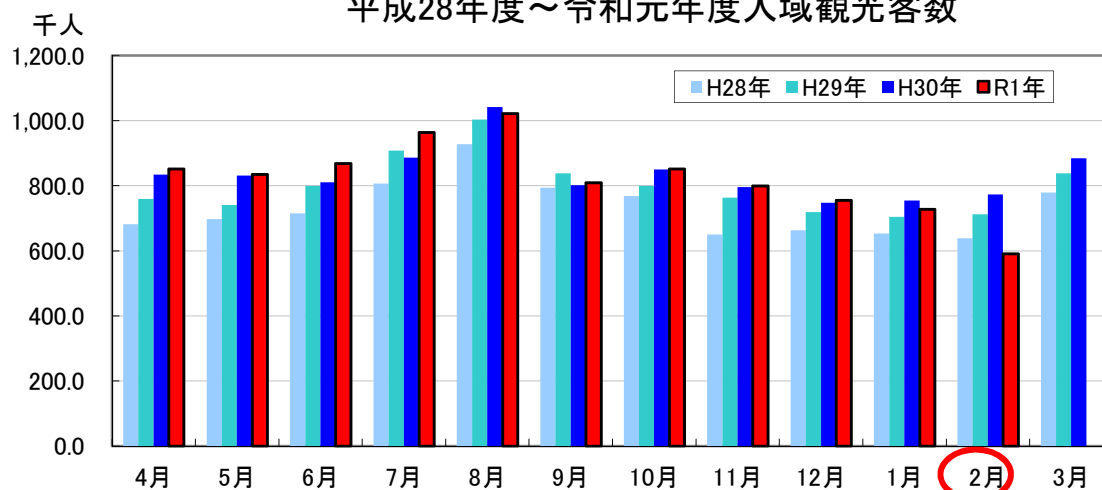
入域観光客数(平成30年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	529,900 人	532,100 人	△ 2,200人	△ 0.4%	89.7%
外国客	61,000 人	240,100 人	△ 179,100人	△ 74.6%	10.3%
合計	590,900 人	772,200 人	△ 181,300人	△ 23.5%	100.0%

【参考】入域観光客数(平成30年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	529,900 人	532,100 人	△ 2,200人	△ 0.4%	90.2%
外国客	57,500 人	208,000 人	△ 150,500人	△ 72.4%	9.8%
合計	587,400 人	740,100 人	△ 152,700人	△ 20.6%	100.0%

平成28年度～令和元年度入域観光客数



国内客 入域状況

2月は、新型コロナウイルス感染症の発生による旅行自粛の動きや国内クルーズ船の寄港が減少したこと等から、前年を下回った。

3月は、新型コロナウイルス感染症の発生による各種イベント自粛や旅行自粛の動きに加え、航空路線の減便やクルーズ船の運航停止等から、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

2月は、新型コロナウイルス感染症の流行による航空路線の減便やクルーズ船の寄港回数の減少、訪日旅行自粛の動きが加速したこと等から、前年を大きく下回った。

3月は、新型コロナウイルス感染症の流行による航空路線の減便やクルーズ船の運航停止、日本への渡航制限及び入国制限の拡大等から、更なる大幅な減少が予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	252,800 人	253,800 人	△ 1,000人	△ 0.4%	47.7%
関西方面	106,000 人	101,300 人	+ 4,700人	+ 4.6%	20.0%
福岡方面	69,300 人	71,100 人	△ 1,800人	△ 2.5%	13.1%
名古屋	48,000 人	48,700 人	△ 700人	△ 1.4%	9.1%
その他	53,800 人	57,200 人	△ 3,400人	△ 5.9%	10.2%
合計	529,900 人	532,100 人	△ 2,200人	△ 0.4%	100.0%

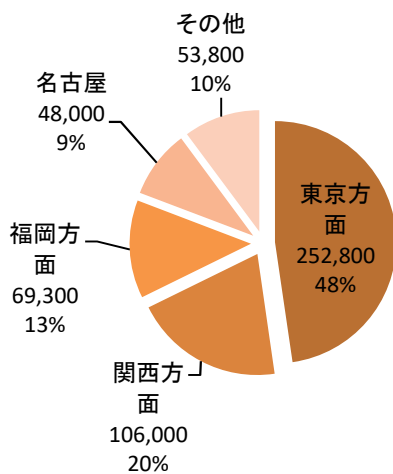
※国内海路客2,900人を含む(鹿児島1,500人、横浜1,400人)

外国客 国籍別入域状況

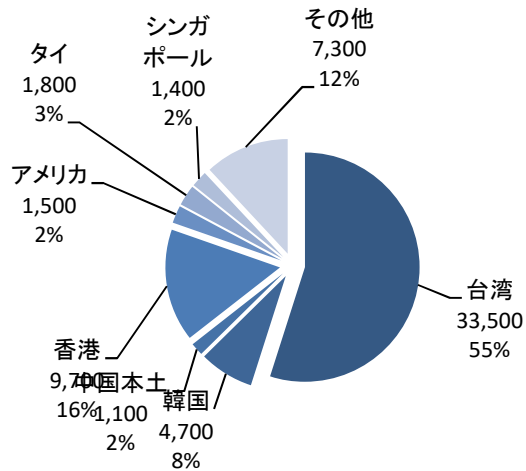
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R1年度	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	33,500 人	33,500 人	58,700 人	△ 25,200人	△42.9%	54.9%
韓国	4,700 人	4,700 人	48,900 人	△ 44,200人	△90.4%	7.7%
中国本土	1,100 人	1,100 人	77,200 人	△ 76,100人	△98.6%	1.8%
香港	9,700 人	9,700 人	10,900 人	△ 1,200人	△11.0%	15.9%
アメリカ	1,500 人	1,500 人	2,600 人	△ 1,100人	△42.3%	2.5%
タイ	1,800 人	1,800 人	2,500 人	△ 700人	△28.0%	3.0%
シンガポール	1,400 人	1,400 人	1,800 人	△ 400人	△22.2%	2.3%
その他	7,300 人	3,800 人	37,500 人	△ 30,200人	△80.5%	12.0%
合計	61,000 人	57,500 人	240,100 人	△ 179,100人	△74.6%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	29,200 人	29,200 人	△42.3%	56.5%	4,300 人	4,300 人	△46.9%	46.2%
韓国	4,700 人	4,700 人	△90.4%	9.1%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	1,100 人	1,100 人	△94.5%	2.1%	0 人	0 人	△100.0%	0.0%
香港	9,400 人	9,400 人	△9.6%	18.2%	300 人	300 人	△40.0%	3.2%
アメリカ	1,100 人	1,100 人	△21.4%	2.1%	400 人	400 人	△66.7%	4.3%
タイ	1,800 人	1,800 人	△25.0%	3.5%	0 人	0 人	△100.0%	0.0%
シンガポール	1,400 人	1,400 人	△22.2%	2.7%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	3,000 人	3,000 人	△6.3%	5.8%	4,300 人	800 人	△87.5%	46.2%
合計	51,700 人	51,700 人	△62.8%	100.0%	9,300 人	5,800 人	△90.8%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

2月は、新型コロナウイルス感染症の発生による団体旅行のキャンセルや旅行自粛の動きがあったこと等から、前年を下回った。

3月は、新型コロナウイルス感染症の発生による旅行自粛の動きや各種イベントの中止に加え、航空路線が減便になっていること等から、厳しい状況が予想される。

大阪

2月は、新型コロナウイルス感染症の発生による旅行自粛の動きが懸念されたものの、前年同月より航空会社の提供座席数が増加したこと等から、前年を上回った。

3月は、新型コロナウイルス感染症の発生による旅行自粛の動きや各種イベントの中止に加え、航空路線が減便になっていること等から、厳しい状況が予想される。

福岡

2月は、新型コロナウイルス感染症の発生による団体旅行のキャンセルや旅行自粛の動きがあったこと等から、前年を下回った。

3月は、新型コロナウイルス感染症の発生による旅行自粛の動きや各種イベントの中止に加え、航空路線が減便になっていること等から、厳しい状況が予想される。

名古屋

2月は、新型コロナウイルス感染症の発生による団体旅行のキャンセルや旅行自粛の動きがあったこと等から、前年を下回った。

3月は、新型コロナウイルス感染症の発生による旅行自粛の動きや各種イベントの中止に加え、航空路線が減便になっていること等から、厳しい状況が予想される。

台湾

2月は、新型コロナウイルス感染症の発生に伴う訪日旅行自粛の動きや、クルーズ船の寄港回数の減少等から、前年を下回った。

3月は、新型コロナウイルス感染症の発生による航空路線の大幅減やクルーズ船の運航停止、日本への渡航警戒レベルの引き上げ等から、大幅な減少が予想される。

韓国

2月は、日韓情勢に加え、新型コロナウイルス感染症の発生に伴う訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便等から、前年を下回った。

3月は、新型コロナウイルス感染症の流行による航空路線の大幅減や日本への入国制限等から、大幅な減少が予想される。

中国本土

2月は、新型コロナウイルス感染症の流行による団体旅行等の販売が禁止されたことに加え、航空路線の大幅減やクルーズ船の運行停止等から、前年を大きく下回った。

3月は、新型コロナウイルス感染症の流行による航空路線の大幅減やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限等から、大幅な減少が予想される。

香港

2月は、新型コロナウイルス感染症の発生に伴う訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便等から前年を下回った。

3月は、新型コロナウイルス感染症の発生による航空路線の大幅減やクルーズ船の運航停止、日本への渡航制限等から、大幅な減少が予想される。

令和2年(2020)3月 入域観光客数概況

39万6,300人
対前年(H31)同月比 -487,700人、-55.2%
～前年同月比で過去最大の減少～

入域状況

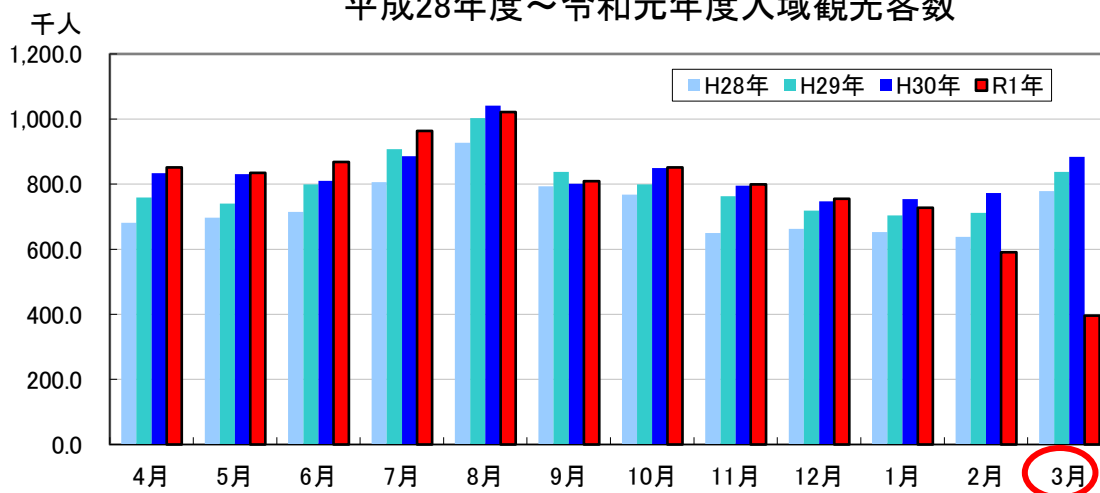
入域観光客数(平成30年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	393,900人	657,400人	△ 263,500人	△ 40.1%	99.4%
外国客	2,400人	226,600人	△ 224,200人	△ 98.9%	0.6%
合計	396,300人	884,000人	△ 487,700人	△ 55.2%	100.0%

【参考】入域観光客数(平成30年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	393,900人	657,400人	△ 263,500人	△ 40.1%	99.4%
外国客	2,400人	196,300人	△ 193,900人	△ 98.8%	0.6%
合計	396,300人	853,700人	△ 457,400人	△ 53.6%	100.0%

平成28年度～令和元年度入域観光客数



国内客 入域状況

3月は、新型コロナウイルス感染症の影響による各種イベントの中止や旅行自粛の動きのため、航空路線の減便や利用率の低下、クルーズ船の運航停止等から、前年同月を大きく下回った。

4月は、国の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言に伴う不要不急の帰省や旅行等の都道府県をまたいだ移動の自粛、沖縄県の緊急事態宣言の間の来県自粛呼びかけ等から、一層厳しい状況が予想される

外国客 入域状況

3月は、新型コロナウイルス感染症の影響による航空路線の減便やクルーズ船の運行停止、日本における検疫強化、ビザの無効化等から、前年同月を大きく下回った。

4月は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための日本への入国制限、航空路線やクルーズ船の運航停止等が引き続き見込まれること等から、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	191,700 人	311,800 人	△ 120,100人	△ 38.5%	48.7%
関西方面	85,000 人	130,800 人	△ 45,800人	△ 35.0%	21.6%
福岡方面	52,400 人	84,300 人	△ 31,900人	△ 37.8%	13.3%
名古屋	31,200 人	59,500 人	△ 28,300人	△ 47.6%	7.9%
その他	33,600 人	71,000 人	△ 37,400人	△ 52.7%	8.5%
合計	393,900 人	657,400 人	△ 263,500人	△ 40.1%	100.0%

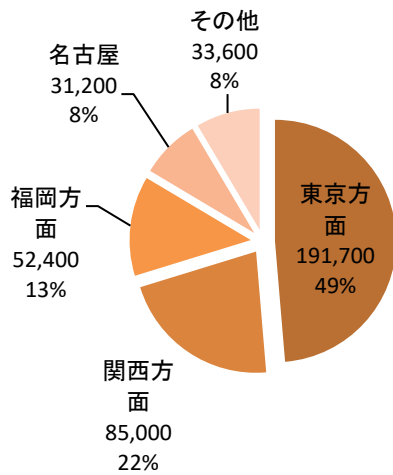
※国内海路客1,600人を含む(鹿児島1,600人)

外国客 国籍別入域状況

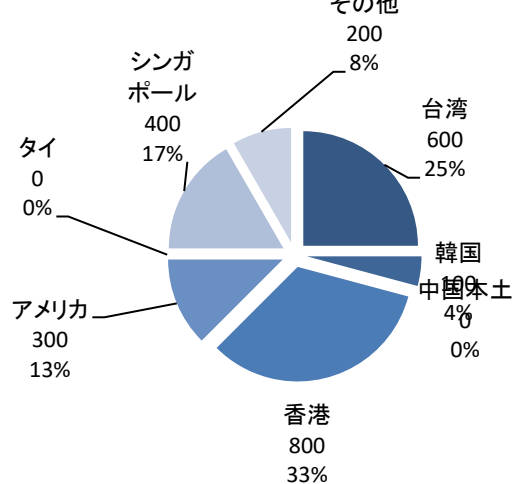
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R1年度	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	600 人	600 人	73,100 人	△ 72,500人	△99.2%	25.0%
韓国	100 人	100 人	42,400 人	△ 42,300人	△99.8%	4.2%
中国本土	0 人	0 人	45,100 人	△ 45,100人	△100.0%	0.0%
香港	800 人	800 人	15,400 人	△ 14,600人	△94.8%	33.3%
アメリカ	300 人	300 人	4,500 人	△ 4,200人	△93.3%	12.5%
タイ	0 人	0 人	2,500 人	△ 2,500人	△100.0%	0.0%
シンガポール	400 人	400 人	2,200 人	△ 1,800人	△81.8%	16.7%
その他	200 人	200 人	41,400 人	△ 41,200人	△99.5%	8.3%
合計	2,400 人	2,400 人	226,600 人	△ 224,200人	△98.9%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	600 人	600 人	△99.0%	25.0%	0 人	0 人	△100.0%	#DIV/0!
韓国	100 人	100 人	△99.8%	4.2%	0 人	0 人	-	#DIV/0!
中国本土	0 人	0 人	△100.0%	0.0%	0 人	0 人	△100.0%	#DIV/0!
香港	800 人	800 人	△93.9%	33.3%	0 人	0 人	△100.0%	#DIV/0!
アメリカ	300 人	300 人	△85.7%	12.5%	0 人	0 人	△100.0%	#DIV/0!
タイ	0 人	0 人	△100.0%	0.0%	0 人	0 人	△100.0%	#DIV/0!
シンガポール	400 人	400 人	△80.0%	16.7%	0 人	0 人	-	#DIV/0!
その他	200 人	200 人	△95.5%	8.3%	0 人	0 人	△100.0%	#DIV/0!
合計	2,400 人	2,400 人	△98.3%	100.0%	0 人	0 人	△100.0%	#DIV/0!

各方面ごとの概況と見通し

東京

3月は、新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛の動きや各種イベント中止のため、航空路線の減便や利用率の低下等から、前年を大きく下回った。

4月は、国の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言に伴う不要不急の帰省や旅行等の都道府県をまたいだ移動の自粛、沖縄県の緊急事態宣言の間の来県自粛呼びかけ等から、一層厳しい状況になると予想される。

大阪

3月は、新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛の動きや各種イベント中止のため、航空路線の利用率が低下したこと等から、前年を大きく下回った。

4月は、国の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言に伴う不要不急の帰省や旅行等の都道府県をまたいだ移動の自粛、沖縄県の緊急事態宣言の間の来県自粛呼びかけ等から、一層厳しい状況になると予想される。

福岡

3月は、新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛の動きや各種イベント中止のため、航空路線の減便や利用率が低下したこと等から、前年を大きく下回った。

4月は、国の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言に伴う不要不急の帰省や旅行等の都道府県をまたいだ移動の自粛、沖縄県の緊急事態宣言の間の来県自粛呼びかけ等から、一層厳しい状況になると予想される。

名古屋

3月は、新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛の動きや各種イベント中止のため、航空路線の利用率が低下したこと等から、前年を大きく下回った。

4月は、国の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言に伴う不要不急の帰省や旅行等の都道府県をまたいだ移動の自粛、沖縄県の緊急事態宣言の間の来県自粛呼びかけ等から、一層厳しい状況になると予想される。

台湾

3月は、新型コロナウイルス感染症の影響により、航空路線の大幅減やクルーズ船の運航停止、日本への渡航警戒レベルが更に引き上げられたこと等から、前年を大きく下回った。

4月は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う航空路線やクルーズ船の運航停止、日本への上陸制限等から、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

3月は、最近の日韓情勢に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による航空路線の大幅減や日本における検疫強化、ビザの無効化等から前年を大きく下回った。

4月は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う航空路線やクルーズ船の運航停止、日本への上陸制限等から、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

3月は、新型コロナウイルス感染症の影響による航空路線の大幅減やクルーズ船の運航停止、団体旅行等の販売禁止、日本における検疫強化、ビザの無効化等から、前年を大きく下回った。

4月は、新型コロナウイルス感染症の影響による航空路線やクルーズ船の運航停止、日本への上陸制限等から、厳しい状況が続くと予想される。

香港

3月は、新型コロナウイルス感染症の影響により、航空路線の大幅減やクルーズ船の運航停止、日本における検疫強化、ビザの無効化や香港政府が中国本土、マカオ、台湾を除く全ての国への渡航レベルを引き上げたこと等から、前年を大きく下回った。

4月は、新型コロナウイルス感染症の影響による航空路線やクルーズ船の運航停止、日本への上陸制限等から、厳しい状況が続くと予想される。